

2014 年春季年会

# 年会プログラム

於 国際基督教大学

2014 年 3 月 19 日 (水) ~ 3 月 22 日 (土)

日本天文学会

# 日本天文学会 2014 年春季年会プログラム

期 日 2014年3月19日(水)～3月22日(土)

場 所 国際基督教大学(東京都三鷹市)

電 話 090-4387-6893 <使用期間 2014年3月19日(水)～3月22日(土)>

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19									
3月19日 (水)	A				受 付		A. r & G W	TMT 特別セッション (A会場)		ALMA 特別セッション (A会場)		理 事 会									
	B						C. 天文学史														
	C						U. 宇宙論														
	D						J1. 高密度星														
	E						V1. 地上観														
	F						T. 銀河団														
	G						Y. 教育・他														
	H						L. 太陽系														
	I						W2. 飛翔観														
3月20日 (木)	A	受付	A. r & G W	昼休み (代議員 総会)	ポスター	A. r & G W	会員 全体集会 (A会場)	受賞記念講演 (A会場)													
	B		C. 天文学史			N. 恒星															
	C		U. 宇宙論			Q. 星間現象															
	D		J1. 高密度星			J1. 高密度星															
	E		V1. 地上観			V1./V2. 地上観															
	F		P2. 星・惑星			P2. 星・惑星															
	G		Y. 教育・他/R. 銀河			R. 銀河															
	H		K. 超新星爆発			M. 太陽															
	I		W2. 飛翔観			W2./W1. 飛翔観															
3月21日 (金)	A	受付	B. A L M A	昼休み	ポスター	B. A L M A	天文教育 フォーラム (A会場)			懇 親 会											
	B		N. 恒星			X. 銀河形成															
	C		Q. 星間現象			Q. 星間現象															
	D		J1./J2. 高密度星			J2. 高密度星															
	E		V2. 地上観			V2. 地上観															
	F		P2./P1. 星・惑星			P1. 星・惑星															
	G		R. 銀河			S. 活動銀河核															
	H		M. 太陽			M. 太陽															
	I		W1. 飛翔観			W1. 飛翔観															
	J					ジュニアセッション															
	3月22日 (土)		A			受付							B. A L M A	昼休み	ポスター	X. 銀河形成					
B		X. 銀河形成	X. 銀河形成																		
C		Q. 星間現象																			
D		J2. 高密度星																			
E		V2. 地上観																			
F		P1. 星・惑星																			
G		S. 活動銀河核	S. 活動銀河核																		
H		M. 太陽	M. 太陽																		
I		W1. 飛翔観	W1. 飛翔観																		
J					ジュニアセッション																
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19									

A会場: 理学館 2F (N220)

B会場: 本館 1F (H116)

C会場: 本館 2F (H213)

D会場: 本館 2F (H262)

E会場: 本館 2F (H260)

F会場: 本館 3F (H304)

G会場: 本館 3F (H315)

H会場: 本館 3F (H367)

I会場: 本館 3F (H364)

J会場: D館 1,2F オーディトリウム

受 付: 本館 2F ロビー

ポスター会場: 本館 1～3F (H152～H352)

展示コーナー: 本館 2F (H251)

会 議 室: 理学館 2F (N203)

懇 親 会: ダイアログハウス 1F 大学食堂

## ◎講演数

講演数：合計 721

(口頭講演 (a)：481、ポスター講演 (b)：170、ポスター講演 (c)：70)

## ◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2011年秋季年会より、講演登録費は、講演申込時にお支払いいただく事になっています。

### ○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
(但し講演ありの場合、参加費は無料)		
講 演 登 録 費	3,000 円 (不課税)	10,000 円 (消費税込み) (1 講演につき)
年 会 予 稿 集	2,000 円 (消費税込み)	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

○参加登録受付場所：受付 (本館 2F ロビー)

○参加登録受付時間：3月19日 11:00～16:00

3月20日 09:00～16:00

3月21日 09:00～16:00

3月22日 09:00～13:30

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

## ◎講演に関する注意

1. 口頭発表は9会場で並行して行います。口頭講演(添字 a)は、口頭発表9分、質疑応答3分です。ポスター講演(添字 b)は、口頭発表3分、3講演で12分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表(添字 b)、(添字 c)は、3月19日の12:00から3月22日の13:30までポスター会場の指定された場所に掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。ポスターサイズは縦180cm×横90cmです。
3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは、セッション開始前にPCの接続を確認してください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中にPCを接続しておいてください。

## ◎会期中の行事

月 日	時 間	会 場	行 事 名
3月19日 (水)	15:15 ~ 16:45	A 会場	TMT 特別セッション
	17:00 ~ 18:30	A 会場	ALMA 特別セッション
3月20日 (木)	15:30 ~ 16:30	A 会場	会員全体集会
	16:30 ~ 18:00	A 会場	受賞記念講演
3月21日 (金)	15:30 ~ 17:00	A 会場	天文教育フォーラム
	17:30 ~	大学食堂	懇親会
3月23日 (日)	13:00 ~ 17:00	国際基督教大学 D 館オーディトリウム	公開講演会

## ◎会合一覧表

月 日	時 間	会 場	会 合 名	一般参加可否
3月19日 (水)	19:00 ~ 20:00	会議室	理事会	D
3月20日 (木)	11:30 ~ 12:30	C 会場	代議員総会	D
	11:30 ~ 12:30	H 会場	理論天文学宇宙物理学懇談会報告会	C
3月21日 (金)	11:30 ~ 12:30	C 会場	宇宙電波懇談会会合	C
	11:30 ~ 12:30	D 会場	天文・天体物理若手の会総会	C
	11:30 ~ 12:30	F 会場	光学赤外線天文連絡会総会	C
3月22日 (土)	11:30 ~ 12:30	B 会場	日本 SKA コンソーシアム会合	C
	11:30 ~ 12:30	E 会場	女性天文研究者の会	A

※一般参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けのものだが部外者も特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした非公開の会合

## ◎ TMT 特別セッション：

日 時：2014年3月19日（水）15：15～16：45

場 所：A会場

概 要： 国立天文台が次世代の超大型光学赤外線望遠鏡計画として推進している TMT(Thirty Meter Telescope) 計画は、現在、2014年度からの本格建設開始を目指して準備が急ピッチで進められているところです。順調にいくと、今年は、建設開始宣言、TMT 国際天文台の設立、現地工事の開始、日本における本格的な望遠鏡本体構造設計と主鏡製造の開始などが予定されており、大きな節目の年となります。TMT をめぐる国際情勢、望遠鏡建設プラン、観測装置開発の見通し等、天文学会員の関心の高いテーマについて報告し、議論を行います。

プログラム：1. 家正則（国立天文台）「TMT 計画の進捗状況」  
2. 白田知史（国立天文台）「望遠鏡建設計画」  
3. 柏川伸成（国立天文台）「TMT の観測装置開発」

世 話 人：青木和光（国立天文台）

## ◎ ALMA 特別セッション：ALMA アーカイブデータが切り拓く天文学

日 時：2014年3月19日（水）17：00～18：30

場 所：A会場

概 要： ALMA の初期科学運用 (Cycle 0, Cycle 1) や科学評価観測 (Science Verification) では、既に他のミリ波・サブミリ波望遠鏡を遥かに凌ぐ性能が実証されており、銀河系内の星形成領域、近傍銀河、さらには遠方銀河の輝線観測の成果が続々と発表されています。科学運用で観測されたデータは、1年の占有期間を経た後、ALMA アーカイブデータとして全世界に公開され、誰もが自由にダウンロードできるようになります。ALMA データを用いた論文は約 80 編出版されていますが、そのうちの約 4 割が ALMA アーカイブデータを用いた科学成果であり、アーカイブには魅力的なデータが多く眠っていることは明らかです。本特別セッションでは、この「宝の山」である ALMA アーカイブに焦点をあて、アーカイブデータを使ったケーススタディーを紹介し、現在整備されているツールや具体的な手順などを解説する予定です。

プログラム：1. はじめに：林 正彦（国立天文台）  
2. ALMA アーカイブを使ったサイエンス  
a. 銀河形成：長尾 透（愛媛大学）  
b. 星形成：廣田朋也（国立天文台）  
3. ALMA アーカイブを使うために：Erik Muller（国立天文台）

世 話 人：松田有一（国立天文台）

## ◎天文教育フォーラム

後援：日本学術会議物理学委員会 IAU 分科会

テ ー マ：社会は天文学になにを期待しているのか？

日 時：2014年3月21日（金）15：30～17：00

場 所：A会場

概 要：天文学は人類の知的欲望に応えるものであり、学校教育や生涯学習など教育普及活動を通じて人々の精神的な豊かさに貢献すると同時に、新しい技術開発など実用的な面でも社会に対して貢献を行っている、というのは天文学コミュニティの中では広く共有されている認識であると思われます。昨年春の天文教育フォーラムでも、「天文学は社会をリードできるか？」というテーマで議論を行いました。概ね上記のような結論になったと思います。

しかしながら、上記のような主張は、天文学に携わる立場の人間の自己認識であって、天文学分野の外から見た時に、同じように見えるかはわかりません。天文学分野の自己認識と、社会からの認識は、はたして一致しているのでしょうか？私たちは、裸の王様だったりしないのでしょうか？あるいは、私たちが認識できていない新しい観点があたりしないのでしょうか？

今回の天文教育フォーラムでは、社会の第一線で活躍されている天文学分野外の方々をゲストにお招きし、どのような観点から天文学が役立っていると考えているのか意見をうかがい、天文学と社会の関係を考える機会のひとつにしたいと考えています。

プログラム：＜話題提供＞

齊藤卓也氏（文部科学省科学技術改革タスクフォース戦略室 室長）

仲川薫氏（株式会社リクルートジョブズ 執行役員）

横山禎徳氏（東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム企画推進責任者 / 三井住友銀行社  
外取締役 / 社会システム・アーキテクト）

参 加 費：天文教育フォーラムのみの参加者は、年会参加費は不要です。天文学会年会受付で、その旨お伝えください。

世 話 人：高梨直紘（東京大学）、菊川真以（つくばエキスポセンター）塚田健（平塚市博物館）、大山真満（滋賀大学）、安藤享平（郡山市ふれあい科学館）

## ◎ TMT 展示ブース : TMT 望遠鏡望遠鏡模型

日 時 : 天文学会期間内

場 所 : 本館 2F

概 要 : 国立天文台は次世代の超大型光学赤外線望遠鏡計画として TMT(Thirty Meter Telescope) 計画を国際協力で推進しています。2014 年度からの本格建設開始をめざし、現在、望遠鏡本体の基本設計や主鏡製作、国際協議などが進められています。

多くの方に TMT の全体像をイメージしていただくために、100分の1の稼働模型を製作しました。日本が製作を担当する予定である望遠鏡本体構造のほか、独特な形状のドーム構造についても動きをみてとることができる模型です。ぜひお立ち寄りください。

世 話 人 : 青木和光 (国立天文台・TMT 推進室) TEL 0422-34-3524

家 正則 (国立天文台・TMT 推進室) TEL 0422-34-3520

山下卓也 (国立天文台・TMT 推進室) TEL 0422-34-3786

## ◎日本天文学会公開講演会

テ ー マ : 「人は宇宙に何をみてきたのか」

日 時 : 2014 年 3 月 23 日 (日) 13 時 ~ 17 時 (開場 : 12 時 30 分)

場 所 : 国際基督教大学  
ディッフENDORF 記念館東棟 オーディトリウム (J 会場)

対 象 : 概ね中学生以上の方を対象とした内容ですが、どなたでも御来聴ください。

概 要 : 地球に生を受けた私達人間は、古より天空を見つめ、豊かな時代も不安な時代も天文学という学問を絶やすことはなかった。一体、人間は宇宙に何を求めてきたのだろうか。宇宙を見つめる眼差しは時代と共に変遷しても、私達はそこに何かを見出し、次の世代へと探求心は受け継がれてきた。この講演会では、過去・現在、そして未来の人間が向き合う宇宙の姿を、3名の講師に論じていただく。国立天文台を臨み、古くから天文学に親しみのある三鷹というこの地で、リベラルアーツに根ざす学際的なキャンパスの中、時空を超えた人間と宇宙との関わりに思いを巡らせるひとときを持ちたい。

内 容 : 講演 1 : 古の人々の眼差し — 「天文学は『役立つ』学問だった」

村上陽一郎氏 (東洋英和女学院大学学長、東京大学名誉教授、国際基督教大学名誉教授)

講演 2 : 現代の私達の眼差し — 「宇宙は何でできているのか」

村山齊氏 (東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構機構長、カリフォルニア大学バークレイ校  
マックアダムス冠教授、ローレンス・バークレイ国立研究所上級研究員)

講演 3 : 未来へ向けた眼差し — 「新たな宇宙像を切り拓く天文観測 ~ 超大型望遠鏡 TMT の挑戦」

青木和光氏 (自然科学研究機構国立天文台 TMT 推進室 准教授)

申 込 : 入場無料で、事前の参加申込も不要です。ただし、会場定員 400 名を超える場合は、先着順とさせていただきます。

そ の 他 : 自家用車でのご来場はご遠慮ください。また、オーディトリウム内では飲食は禁止されています。



## 春季年会会場 国際基督教大学 (ICU) キャンパスのご案内

◆ **交通アクセス:** 最寄り駅の JR 中央線武蔵境駅(所要:東京駅より快速 35 分)あるいは三鷹駅(東京駅より快速 33 分, 特快 28 分)から大学構内へのバスがご利用いただけます。

- ▶ 武蔵境駅南口より: 小田急バス「境 93 国際基督教大学」行にて終点下車(所要 12 分)。
- ▶ 三鷹駅南口より: 小田急バス「鷹 51 国際基督教大学」行にて終点下車(所要 20 分)。
- ▶ 京王線調布駅北口より: 小田急バス「境 91 武蔵境駅南口」行または「鷹 51 三鷹駅 (西野御塔坂下経由)」行にて「富士重工前」で下車(所要 20 分), 徒歩 10 分。
- ▶ その他: 西武鉄道多摩川線 新小金井駅からも徒歩 15 分程度です。自転車で来校される場合は, キャンパスマップの駐輪所をご利用ください。タクシーは武蔵境駅南口から構内バス停のロータリーまで所要 10 分(1000 円程度)です。自家用車での来校はご遠慮ください。

### ◆ キャンパスマップ

ICU 高校正門  
至 新小金井駅 (750m)

北門

国際基督教大学 (終点)  
行先 境 93: 武蔵境駅南口  
鷹 51: 三鷹駅

至 正門 (450m) → 下図へ

東八道路

南門

至 国立天文台 (600m)

[ 凡例 ]  
 ▶ 建物入口  
 ♀ バス停  
 ATM ATM  
 郵便局  
 Ⓟ 駐輪所

国際基督教大学 バス時刻表

境93 武蔵境駅南口行					鷹51 三鷹駅行						
平日 (3/19, 20)					平日 (3/19, 20)						
15	06	20	36	54	15	5	25	40			
16	12	24	36	48	16	0	8	23	44		
17	00	12	22	35	51	17	0	16	26	42	58
18	04	21	33	51	18	5	28	51			
19	04	19	33	19	12	26	42				
20	01	29	58	20	8	24	42				
土・日・祝日 (3/21, 22, 23)					土・日・祝日 (3/21, 22, 23)						
15	19	36	48	15	2	12	31	37			
16	00	18	28	47	58	16	0	14	23	35	
17	16	36	56	17	4	27	35	58			
18	25	54	18	14	38	52	59				
19	24	53	19	12	31	50					
20	22	54	20	11							

国際基督教大学入口

正門

調布

富士重工前

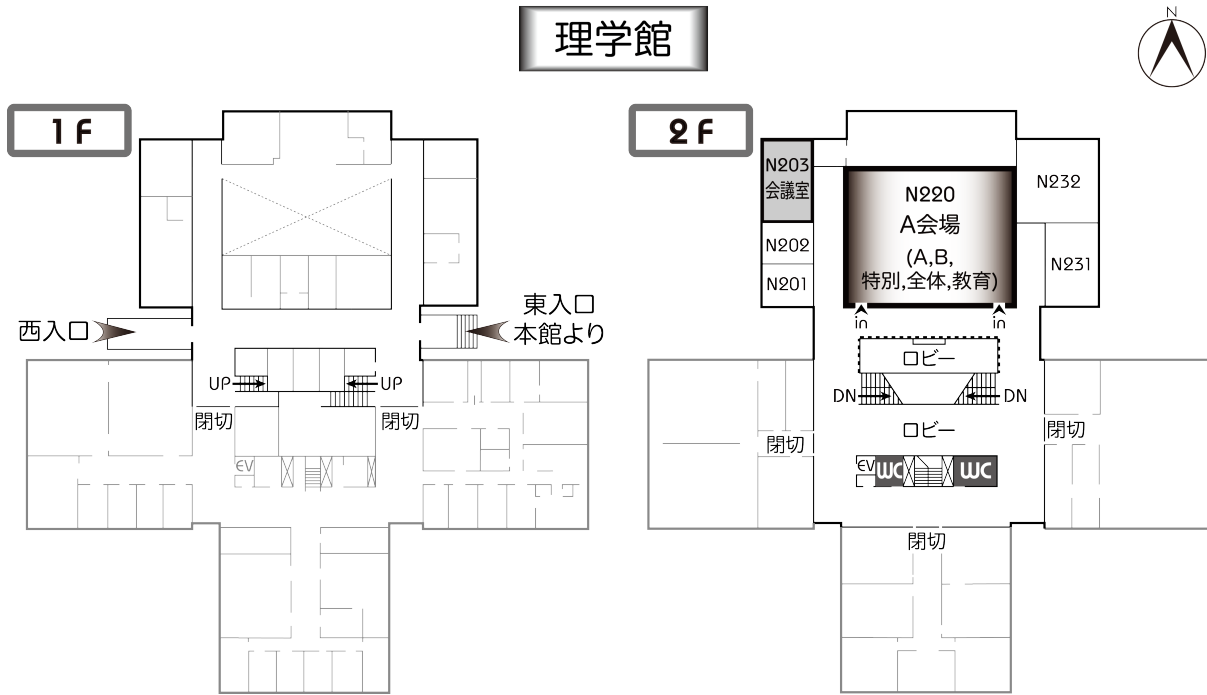
武蔵境



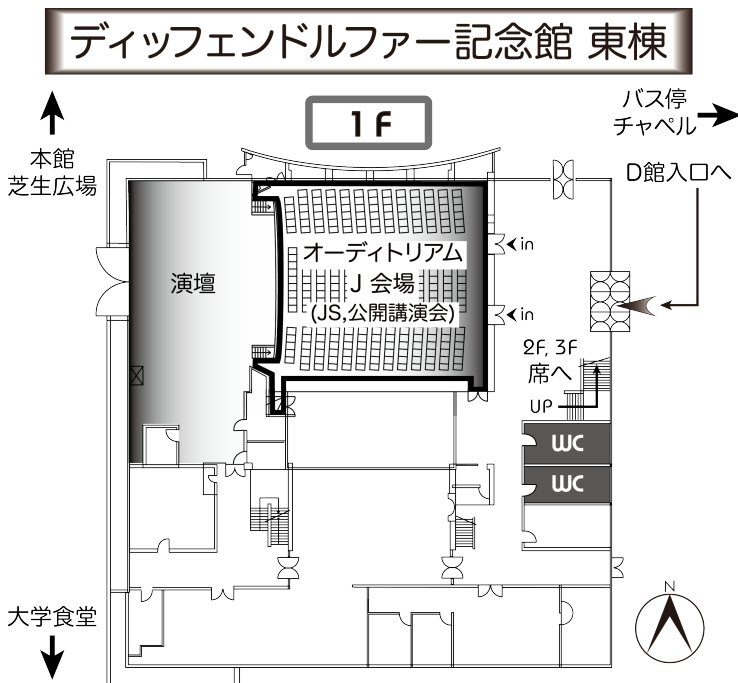


◆ 理学館 (A 会場, 会議室)

本館北側入口から理学館東入口まで 100m 程です。東入口を入れて左手の階段より 2 階に上がると A 会場, 会議室があります。ロビーは休憩所としてご利用ください。「閉切」の表示の先は研究室エリアですので立ち入りをご遠慮ください。また理学館内はトイレの数が少ないため、できるだけ本館のトイレをご利用ください。



◆ ディッフェンドルファー記念館 (D 館) 東棟 (J 会場, 公開講演会)



D 館東棟は芝生広場側より入ります。チャペルとの間にあるパーゴラをくぐると、右手に入口があります。オーデトリウムには 2 階席 (入口は 2 階と 3 階) もあります。オーデトリウム内では、飲食、及び濡れた傘の持ち込みはご遠慮ください。

\* 各会場の ( ) 内は分野記号

## 口頭セッション 3月19日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【r&GW】	【天文学史】	【宇宙論】	【高密度星】	【地上観】	【銀河団】	【教育・他】	【太陽系】	【飛翔観】
13:00	A01r S A07b	C01r S C08a	U01a	J101a	V101a	T01a	Y01a	L01a	W201a
13:12			U02a	J102a	V102a	T02a	Y02a	L02a	W202a
13:24			U04a	J103a	V103a	T03a	Y04a	L03a	W203a
13:36			U05a	J104a	V104a	T04a	Y05b Y06b Y07b	L04a	W205a
13:48			U06a	J105a	V105a	T05a	Y08a	L05a	W206a
14:00			U08a	J106a	V106a	T06a	Y09a	L06a	W207b W208b W209b
14:12			U09a	J107a	V107a	T07a	Y10a	L07a	W210a
14:24			U12a	J108b J109b J110b	V108a	T08b T09b	Y12a	L10a	W211a
14:36			U13a	J112b J113b J114b	V109b V110b V111b	-	Y14a	L11a	W212a
14:48			U14b	J115b J116b	V112a	-	Y15a	L12b L13b L14b	W213a
15:00	-	-	-	-	-	-	L15b	W214b W215b	
15:15	TMT 特別セッション (A会場)								
17:00	ALMA 特別セッション (A会場)								
19:00	理事会 (会議室)								

## 口頭セッション 3月20日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【r&GW】	【天文学史】	【宇宙論】	【高密度星】	【地上観】	【星・惑星】	【教育・他/ 銀河】	【超新星爆発】	【飛翔観】
09:30	A08r ∩ A14a	C09b ∩ C21a	U16a	J120a	V113a	P201a	Y16a	K01a	W216a
09:42			U17a	J121a	V116a	P202a	Y17b Y18b Y20b	K02a	W217a
09:54			U18a	J122a	V117a	P203a	Y21a	K03a	W218a
10:06			U19a	J201a	V118a	P204a	Y23a	K04a	W219a
10:18			U20a	J123a	V119a	P205a	Y24b Y25b Y26b	K05a	W220a
10:30			U21a	J124a	V121a	P206a	Y27b Y30b	K07a	W221a
10:42			U22a	J126a	V122a	P207a	R01a	K08a	W222a
10:54			U25a	J127a	V123a	P208a	R02a	K09b K10b	W223b W224b W226b
11:06			-	J128a	V124b V125b V126b	P209b P210b P211b	R03a	-	W227b W228b W229b
11:18			-	J202a	V127b V128b V129b	P212b P213b P214b	R04b	-	W230a
11:30	昼休み (代議員総会) (C会場)								
12:30	ポスター								
開始時刻	【r&GW】	【恒星】	【星間現象】	【高密度星】	【地上観】	【星・惑星】	【銀河】	【太陽】	【飛翔観】
13:30	A15r ∩ A23a	N01a	Q01a	J129a	V130a	P215a	R05a	M01a	W231a
13:42		N02a	Q02a	J130a	V131b V132b V133b	P216a	R06a	M02a	W232b W233b W235b
13:54		N03a	Q03a	J131a	V134a	P217a	R07a	M03a	W236a
14:06		N04a	Q04a	J132a	V135a	P220a	R08a	M04b M05b M06b	W237a
14:18		N05a	Q05a	J133a	V136a	P221a	R09a	M09a	W238b W240b W242b
14:30		N06a	Q06a	J134a	V137b V138b V139b	P222a	R11a	M10a	W101a
14:42		N07a	Q07a	J135a	V140b	P223a	R12a	M11a	W102b W103b W105b
14:54		N08b N09b N10b	Q08a	J136a	V201a	P224a	R14a	M12a	W106a
15:06		N11a	Q09a	J137a	V202a	P225a	R15b R16b R17b	M13a	W107a
15:18		N12a	Q10a	J138a	V203a	P226b P227b P228b	R18a	M14b M15b M16b	W108b W109b W110b
15:30	-	-	-	-	-	-	-	-	W111b
15:30	会員全体集会 (A会場)								
16:30	受賞記念講演 (A会場)								

## 口頭セッション 3月21日(金)

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場	F 会場	G 会場	H 会場	I 会場
開始時刻	【ALMA】	【恒星】	【星間現象】	【高密度星】	【地上観】	【星・惑星】	【銀河】	【太陽】	【飛翔観】
09:30	B01a S B07a	N13a	Q11a	J139a	V204a	P229a	R19a	M17a	W112a
09:42		N14a	Q12a	J140a	V205a	P230a	R20a	M18a	W113a
09:54		N15a	Q13a	J141a	V206b V207b V208b	P231a	R21a	M19a	W114a
10:06		N16a	Q14a	J142a	V209b V210b V211b	P232a	R22a	M20a	W115a
10:18		N17a	Q15a	J143a	V212a	P233a	R23a	M21a	W116a
10:30		N18a	Q16a	J144a	V214a	P234a	R24a	M22a	W117a
10:42		N19a	Q17a	J145a	V215a	P235a	R25a	M23a	W118b W119b W120b
10:54		N20a	Q18a	J146a	V216a	P101b P102b P103b	R26a	M24b M26b M28b	W121a
11:06		N21a	Q19a	J203b J204b J205b	V217b V218b V219b	P104b P105b	R27a	M29b M30b M31b	W122a
11:18		N22a	Q20b Q21b	J208b	V220a	-	-	M32b M33b	W123a
11:30	-	N23a	-	-	-	-	-	-	
11:42	-	N24b	-	-	-	-	-	-	
11:30	昼休み								
12:30	ポスター								
開始時刻	【ALMA】	【銀河形成】	【星間現象】	【高密度星】	【地上観】	【星・惑星】	【活動銀河核】	【太陽】	【飛翔観】
13:30	B08r S B13a	X01a	Q22a	J209a	V222a	P108a	S01a	M35a	W124a
13:42		X02b X03b X04b	Q23a	J210a	V223a	P109a	S02a	M36a	W125a
13:54		X05a	Q24a	J211a	V224a	P110a	S03a	M37a	W126a
14:06		X06a	Q25a	J212a	V225a	P111a	S04a	M38a	W127a
14:18		X07a	Q26a	J213a	V226a	P112a	S05a	M39a	W128a
14:30		X08a	Q27a	J214a	V227a	P113b P114b P115b	S06a	M40a	W129a
14:42		X09a	Q28a	-	V228a	P116a	S07a	M41a	W130a
14:54		X10b X11b X12b	Q29a	-	V229a	P117a	S08b S09b S10b	M42a	W131a
15:06		X13b X14b X15b	-	-	V230b V231b V232b	P118a	S11b S12b S13b	M43a	W132a
15:18		X16b X17b	-	-	V233a	P119b P120b P121b	S17b S18b S19b	M44a	W133a
15:30	-	-	-	-	V234b	P122b P123b P124b	-	-	
15:30	天文教育フォーラム (A 会場)								
17:30	懇親会 (ダイアログハウス 1F 大学食堂)								

## 口頭セッション 3月22日(土)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【ALMA】	【銀河形成】	【星間現象】	【高密度星】	【地上観】	【星・惑星】	【活動銀河核】	【太陽】	【飛翔観】
09:30	B14r ) B21a	X18a	Q31a	J215a	V236a	P125a	S21a	M45a	W134a
09:42		X19a	Q32a	J216a	V237a	P126a	S22a	M46a	W135a
09:54		X20a	Q33a	J217a	V239a	P127a	S23a	M47a	W136a
10:06		X21a	Q34a	J218a	V240a	P1258a	S24a	M48a	W137a
10:18		X22a	Q35a	J219a	V241a	P129a	S25a	M49a	W138a
10:30		X23a	Q36a	J220a	V242a	P130a	S26a	M50a	W139a
10:42		X25a	Q37a	J221a	V243b V244b	P131a	S27a	M51a	W140a
10:54		X26a	Q38a	J222a	-	P132a	S28a	M53a	W141a
11:06		X27a	Q39a	J223a	-	P133a	S29a	M54a	W142a
11:18		X28a	Q40a	J224a	-	P134a	S30a	M55a	W143a
11:30	-	-	Q41a	J225a	-	P135a	-	-	-
11:42	-	-	Q42b Q43b Q44b	J226a	-	-	-	-	-
11:54	-	-	Q45b	-	-	-	-	-	-
11:30	昼休み								
12:30	ポスター								
開始時刻	-	【銀河形成】	-	-	-	-	【活動銀河核】	【太陽】	【飛翔観】
13:30	-	X29a	-	-	-	-	S31a	M56a	W146a
13:42	-	X30a	-	-	-	-	S32a	M57a	W147a
13:54	-	X31a	-	-	-	-	S33a	M59a	W148a
14:06	-	X32a	-	-	-	-	S34a	M60a	W149a
14:18	-	X33a	-	-	-	-	S35a	M61a	W150a
14:30	-	X34a	-	-	-	-	S36a	M62a	W151a
14:42	-	X35a	-	-	-	-	S37a	-	W152a
14:54	-	X36a	-	-	-	-	S38a	-	W153a
15:06	-	X37a	-	-	-	-	S39a	-	-



ポスターセッション 3月20日(木) ~ 3月22日(土)

ポスター会場 JS1

ジュニアセッション

ポスター会場 JS2

ジュニアセッション

ポスター会場 AB

【A. r&GW】(1)

A07b

【C. 天文学史】(12)

C09b C10b C11b C12b C13b

C14b C15b C16b C22c C23c

C24c C25c

【N. 恒星】(4)

N08b N09b N10b N24b

【X. 銀河形成】(12)

X02b X03b X04b X10b X11b

X12b X13b X14b X15b X16b

X17b X24c

ポスター会場 C

【U. 宇宙論】(8)

U03c U07c U10c U11c U14b

U15c U23c U24c

【Q. 星間現象】(10)

Q20b Q21b Q30c Q42b Q43b

Q44b Q45b Q46c Q47c Q48c

ポスター会場 D

【J1. 高密度星】(13)

J108b J109b J110b J111c J112b

J113b J114b J115b J116b J117c

J118c J119c J125c

【J2. 高密度星】(6)

J203b J204b J205b J206c J207c

J208b

ポスター会場 E

【V1. 地上観測機器】(20)

V109b V110b V111b V114c V115c

V120c V124b V125b V126b V127b

V128b V129b V131b V132b V133b

V137b V138b V139b V140b V141c

【V2. 地上観測機器】(19)

V206b V207b V208b V209b V210b

V211b V213c V217b V218b V219b

V221c V230b V231b V232b V234b

V235c V238c V243b V244b

展示

アキリスジャパン (株)

Exelis VIS (株)

(株) オハラ

(株) Cambridge University Press Japan

富士通 (株)

TMT 推進室

ポスターセッション 3月20日(木) ~ 3月22日(土)

ポスター会場 F

【T. 銀河団】(2)

T08b T09b

【P1. 星・惑星】(16)

P101b P102b P103b P104b P105b

P106c P107c P113b P114b P115b

P119b P120b P121b P122b P123b

P124b

【P2. 星・惑星】(11)

P209b P210b P211b P212b P213b

P214b P218c P219c P226b P227b

P228b

ポスター会場 G

【Y. 天文教育・他】(19)

Y03c Y05b Y06b Y07b Y11c

Y13c Y17b Y18b Y19c Y20b

Y22c Y24b Y25b Y26b Y27b

Y28c Y29c Y30b Y31c

【R. 銀河】(6)

R04b R10c R13c R15b R16b

R17b

【S. 活動銀河核】(13)

S08b S09b S10b S11b S12b

S13b S14c S15c S16c S17b

S18b S19b S20c

ポスター会場 H

【L. 太陽系】(7)

L08c L09c L12b L13b L14b

L15b L16c

【K. 超新星爆発】(4)

K06c K09b K10b K11c

【M. 太陽】(21)

M04b M05b M06b M07c M08c

M14b M15b M16b M24b M25c

M26b M27c M28b M29b M30b

M31b M32b M33b M34c M52c

M58c

ポスター会場 I

【W1. 飛翔体観測機器】(13)

W102b W103b W104c W105b W108b

W109b W110b W111b W118b W119b

W120b W144c W145c

【W2. 飛翔体観測機器】(23)

W204c W207b W208b W209b W214b

W215b W223b W224b W225c W226b

W227b W228b W229b W232b W233b

W234c W235b W238b W239c W240b

W241c W242b W243c

## A. r プロセスと重力波天文学

<b>3月19日(水) 午後・A会場</b>			
13:00	<b>A01r</b> 中性子星合体によるrプロセスと重力波天文学・(25) 和南城伸也(国立天文台)	10:49	<b>A12a</b> 連星中性子星合体における核分裂の及ぼす影響・(12) 柴垣翔太(東京大学)
13:25	<b>A02r</b> 連星中性子星からの重力波と質量放出・(25) 仏坂健太(京都大学)	11:01	<b>A13a</b> 木曾シュミット望遠鏡 KWFC を用いた高頻度超新星サーベイ KISS・(12) 諸隈智貴(東京大学)
13:50	<b>A03r</b> 重力波の観測・(30) 安東正樹(東京大学)	11:13	<b>A14a</b> 低金属星のrプロセス元素測定と将来計画・(12) 青木和光(国立天文台)
14:20	<b>A04a</b> Magnetar および Collapsar モデルに基づくr-process 元素合成・(12) 藤本信一郎(熊本高専)	<b>3月20日(木) 午後・A会場</b>	
14:32	<b>A05a</b> 三次元非一様化学進化モデルと鉄より重い元素の起源・(12) 荒尾幸絵(国際基督教大学)	13:30	<b>A15r</b> ガンマ線バースト観測の近況・(30) 河合誠之(東京工業大学)
14:44	<b>A06a</b> 連星中性子星合体によって放出された Ejecta 中でのジェット伝搬とコリメーション・(12) 長倉洋樹(京都大学)	14:00	<b>A16a</b> 重力波源天体の可視光分光フォローアップ観測計画・(12) 松林和也(京都大学)
14:56	<b>A07b</b> Thorne-Zytkow 天体形成時の中性子星=巨星相互作用・(3) 鷹野重之(九州産業大学)	14:12	<b>A17a</b> 金属欠乏星の中性子捕獲元素組成の解析・(12) 青木みさ(国際基督教大学)
<b>3月20日(木) 午前・A会場</b>		14:24	<b>A18a</b> 超新星爆発からの重力波観測・(12) 端山和大(大阪市立大学)
09:30	<b>A08r</b> 重力波の対応天体・(30) 井岡邦仁(KEK 素核研)	14:36	<b>A19a</b> 「rプロセス新星」の輻射輸送シミュレーション・(12) 田中雅臣(国立天文台)
10:00	<b>A09r</b> 金属欠乏星のrプロセス元素組成観測・(25) 本田敏志(兵庫県立大学)	14:48	<b>A20a</b> ケイ素燃焼における超新星前兆ニュートリノ放出・(12) 吉田 敬(京都大学)
10:25	<b>A10a</b> 連星中性子星合体の一般相対論的ニュートリノ輻射流体シミュレーション・(12) 関口雄一郎(京都大学)	15:00	<b>A21a</b> 連星中性子星合体シナリオに基づくrプロセス元素の化学進化・(12) 辻本拓司(国立天文台)
10:37	<b>A11a</b> 階層的化学進化モデルで探る金属欠乏星のrプロセス元素: 連星中性子星合体説への制限・(12) 小宮 悠(国立天文台)	15:12	<b>A22a</b> 銀河系恒星ハローおよび厚い円盤のユーロピウム組成・(12) 石垣美歩(東京大学)
		15:24	<b>A23a</b> 中性子星合体はrプロセスの起源か: 階層的構造形成論に基づく化学進化にみる・(12) 石丸友里(国際基督教大学)

## B. ALMA の初期科学成果

3月21日(金) 午前・A会場		3月21日(金) 午後・A会場	
09:30	<b>B01a</b> Science Revolution with the ALMA Telescope ・(12) Tetsuo Hasegawa (NAOJ)	13:30	<b>B08r</b> Observations of Protoplanetary Disks with ALMA ・(20) Munetake MOMOSE (Ibaraki University)
09:42	<b>B02r</b> Star Formation through the “Eyes” of ALMA ・(20) LIU, Sheng-Yuan (Academia Sinica Institute of Astronomy and Astrophysics)	13:50	<b>B09a</b> ALMA Observations of Infalling Gas Motion toward Keplerian Disks around Protostars ・(12) Hsi-Wei Yen (ASIAA)
10:02	<b>B03a</b> ALMA Observations of Dense Molecular Condensation MC27(=L1521F) ・(12) Tokuda Kazuki (Osaka Prefecture University)	14:02	<b>B10a</b> ALMA Cycle 0 Observation of a Protostellar Binary L1551 NE ・(12) Shigehisa Takakuwa (Academia Sinica Institute of Astronomy and Astrophysics (ASIAA))
10:14	<b>B04a</b> Study of Star formation and ISM in the Magellanic Clouds by ALMA ・(12) Akiko Kawamura (National Astronomical Observatory of Japan)	14:14	<b>B11a</b> A Keplerian disk around a Class 0 source: ALMA observations of VLA1623A ・(12) Shih-Ping Lai (National Tsing Hua University, Taiwan)
10:26	<b>B05r</b> Astrochemistry with ALMA ・(20) Satoshi Yamamoto (The University of Tokyo)	14:26	<b>B12a</b> ALMA Observation of a Protoplanetary Disk around HD 142527 II: Disk Model ・(12) Takayuki Muto (Kogakuin University)
10:46	<b>B06a</b> ALMA Observations of the IRDC Clump G34.43+00.24 MM3 ・(12) Takeshi Sakai (The University of Electro-Communications)	14:38	<b>B13a</b> ALMA Korean project and Korean proposals submitted to cycle 2 ・(12) Jongsoo Kim (Korea Astronomy and Space Science Institute)
10:58	<b>B07a</b> A Drastic Chemical Change in Protostellar-Disk Formation: IRAS 04368+2557 in L1527 ・(12) Nami Sakai (The University of Tokyo)		

3月22日(土) 午前・A会場	
09:30	<b>B14r</b> Probing High Redshift Galaxies with ALMA • (20) Masami Ouchi (The University of Tokyo)
09:50	<b>B15a</b> ALMA Observation of 158 $\mu$ m[CII] Line and Dust Continuum of a $z \approx 7$ Normally Star-forming Galaxy in the Epoch of Reionization • (12) Kazuaki Ota (Kavli Institute for Cosmology Cambridge)
10:02	<b>B16a</b> ALMA serendipitous detection of a distant CO emitting galaxy with a buried active galactic nucleus beyond nearby merging galaxies VV114 • (12) Yoichi Tamura (University of Tokyo)
10:14	<b>B17a</b> Probing the origin of flux-ratio anomalies in quadruple lenses with ALMA • (12) Kaiki Inoue (Kinki University)
10:26	<b>B18r</b> ALMA close-up view of dense molecular medium in the central regions of nearby active galaxies • (20) Kotaro Kohno (University of Tokyo)
10:46	<b>B19a</b> Investigating AGN/starburst activities through ALMA multi-line observations in the mid-stage IR-bright merger VV114 • (12) Toshiki Saito (University of Tokyo, NAOJ)
10:58	<b>B20a</b> Ionized gas observation toward a nearby starburst galaxy NGC 253 • (12) Nakanishi Kouichiro (NAOJ)
11:10	<b>B21a</b> The CO survey of Merger Remnants with ALMA • (12) Junko Ueda (The University of Tokyo/NAOJ)

## C. 天文学史とその資料収集・調査・研究

<b>3月19日(水) 午後・B会場</b>			
13:00	<b>C01r</b> 現代天文学にとって天文学史は必要か～個人的経験から～・(30) 中村 士 (帝京平成大学)	09:42	<b>C13b</b> 木村榮遺品にあった木村榮手紙の特別展示と田中館愛橋と思われた写真の誤りについて・(3) 亀谷 収 (国立天文台)
13:30	<b>C02a</b> 国立科学博物館での日本天文学史の調査研究・(12) 西城恵一 (国立科学博物館)	09:42	<b>C14b</b> 開始から50回を迎えた貴重書展示について・(3) 松田 浩 (国立天文台)
13:42	<b>C03a</b> 東アジア・太平洋地域における宇宙にまつわる神話伝説の出版と普及・(12) 海部宣男	09:54	<b>C15b</b> 観測機器保存の重要性・(3) 小石川正弘 (仙台市民図書館)
13:54	<b>C04a</b> 科学史資料としてのプラネタリウムの保存・展示について・(12) 井上 毅 (明石市立天文科学館)	09:54	<b>C16b</b> 歴史的公文書としての研究活動記録の保存と公開・(3) 鳶 宏道 (平塚市博物館)
14:06	<b>C05a</b> 国立天文台のアーカイブ活動・(12) 中桐正夫 (国立天文台)	10:06	<b>C17a</b> 国立天文台天文ミュージアム構想・(12) 大島紀夫 (国立天文台)
14:18	<b>C06a</b> 民衆が生活のなかで形成した星に関する伝承知・(12) 北尾浩一 (大阪科学振興協会 中之島科学研究所)	10:18	<b>C18a</b> 全方位パノラマ映像を利用した歴史的な天体観測施設のオンライン教材・(12) 馬場幸栄 (国立天文台)
14:30	<b>C07a</b> 歴史的な天文記録を使った AGB 星の長期的変動の探査・(12) 藤原智子 (九州大学)	10:30	<b>C19a</b> 天文工学・技術の継承—すばる望遠鏡の例・(12) 林 左絵子 (国立天文台)
14:42	<b>C08a</b> フランスにおける最初の三角測量・(12) 渡辺憲昭 (千葉商科大学)	10:42	<b>C20a</b> 日本の宇宙科学の黎明期の調査—資料収集の状況と展示館構想・(12) 阪本成一 (宇宙航空研究開発機構)
<b>3月20日(木) 午前・B会場</b>		10:54	<b>C21a</b> 天文学史研究を日本天文学会はどう取り扱うべきかの考察と検討・(12) 縣 秀彦 (国立天文台)
09:30	<b>C09b</b> 地域における天文学史資料所在の悉皆調査・(3) 松尾 厚 (山口県立博物館)	<b>C22c</b> 明石市立天文科学館に収蔵されている観測機器等の展示資料について 井上 毅 (明石市立天文科学館)	
09:30	<b>C10b</b> 現存する日本最古の天文台跡について・(3) 渡部潤一 (国立天文台)	<b>C23c</b> 『大越史記全書』に見られる月食記事について 岡崎 彰	
09:30	<b>C11b</b> 熊本博物館が所蔵する天文関係資料・(3) 原 秀夫 (熊本市立熊本博物館)	<b>C24c</b> 聞き取り調査による新城新蔵資料の収集 株本訓久 (武庫川女子大学)	
09:42	<b>C12b</b> 大航海時代の天文学と航海術との関連が認められる古地球儀の地図を公開する。・(3) 花岡靖治 (オルビス株式会社)	<b>C25c</b> 国友一貫斎籐兵衛製作の反射望遠鏡 渡邊文雄 (元 上田創造館)	



## J1. 高密度星

3月19日(水) 午後・D会場		3月20日(木) 午前・D会場	
13:00	<b>J101a</b> KAGRAにおける初代星起源連星の観測可能性と初期分布関数及び連星進化に対する依存性 衣川智弥(京都大学)	14:36	<b>J113b</b> MAXIによるCygnus X-1のハード状態、ソフト状態のエネルギー帯別のCross-correlation解析 杉本樹梨(理化学研究所/立教大学)
13:12	<b>J102a</b> ブラックホール-磁場中性子星連星合体の数値相対論シミュレーション 木内建太(京都大学)	14:36	<b>J114b</b> Crab pulsarにおけるGiant Radio Pulse発生時の硬X線から軟γ線帯域の放射 三上諒(東京大学)
13:24	<b>J103a</b> ハード状態のLMXBにおける光学的に薄い降着流の収束 櫻井壮希(東京大学)	14:48	<b>J115b</b> 降着流から抜け出る加速粒子 木村成生(大阪大学)
13:36	<b>J104a</b> 降着コンパクト天体の熱的コンプトン過程の新しい考察:「すざく」の結果 牧島一夫(東京大学/理研)	14:48	<b>J116b</b> BHシャドウはBH存在を示す一般相対論的な直接証拠になるか? 齊田浩見(大同大学)
13:48	<b>J105a</b> Understanding Dipping LMXBs in the Same Scheme as Normal LMXBs Zhongli Zhang (The Univ. of Tokyo)		<b>J117c</b> MAXI/SSC データを用いた突発天体発見のための地上ソフトウェアシステムの改良II 福島康介(日本大学)
14:00	<b>J106a</b> 「すざく」によるハード状態におけるLMXBの統一的な研究 小野光(東京大学)		<b>J118c</b> 全天X線監視装置MAXIによるX線バーストのカタログ作成 大槻光(青山学院大学)
14:12	<b>J107a</b> 光度増加に伴うサイクロトロン線エネルギーの増加現象について 西村治(長野高専)		<b>J119c</b> MAXI/GSCのデータを用いたX線天体の短時間変動解析 鈴木和彦(日本大学)
14:24	<b>J108b</b> MAXIで求めたパルス周期の変化率とFluxを用いた4U 1626-67の距離の推定 高木利紘(理化学研究所/日本大学)		
14:24	<b>J109b</b> MAXI/Swiftによる低質量X線連星AqlX-1のアウトバーストにおける増光時のスペクトル解析 内田大貴(大阪大学)	09:30	<b>J120a</b> 「すざく」によるガンマ線連星1FGL J1018.6-5856の観測 田中孝明(京都大学)
14:24	<b>J110b</b> 近星点で突然終了するアウトバースト: CirX-1のMAXIの観測 浅井和美(理化学研究所)	09:42	<b>J121a</b> 「すざく」衛星を用いたマグネターのX線定常放射におけるエネルギー依存性のある強度揺らぎの研究 中川友進(宇宙航空研究開発機構)
	<b>J111c</b> 全天X線監視装置MAXIとSwift衛星により観測された中性子星X線連星MAXI J1647-227の特徴とアウトバースト中のスペクトル変化 小野寺卓也(日本大学)	09:54	<b>J122a</b> XMM-Newtonによる強磁場中性子星CXOU J171405.7-381031の観測 永吉勤(埼玉大学)
14:36	<b>J112b</b> MAXIによるCyg X-3の状態遷移とクエンチ状態 三原建弘(理化学研究所)	10:18	<b>J123a</b> マグネターの軸性方向振動と磁気圏との結合 小嶋康史(広島大学)

10:30	<b>J124a</b> マグネターの定常的な磁場構造—コア・クラスト・磁気圏 藤澤幸太郎 (東京大学)	14:42	<b>J135a</b> Blandford-Znajek process における起電力の起源 當真賢二 (大阪大学)
	<b>J125c</b> GRT の観測データを用いたマグネターの可視光バーストの探査 遠藤直也 (青山学院大学)	14:54	<b>J136a</b> ブラックホールのまわりの電磁波の伝播とエネルギー引き抜き機構 小出眞路 (熊本大学)
10:42	<b>J126a</b> 状態遷移する磁気圏のポーラックアップの応答に関する数値シミュレーション 柴田晋平 (山形大学)	15:06	<b>J137a</b> 輻射輸送の M1 モデルの特性とローレンツ変換 花輪知幸 (千葉大学)
10:54	<b>J127a</b> パルサーの可視光放射領域 木坂将大 (東京大学)	15:18	<b>J138a</b> 高次精度 MHD シミュレーションコード「CANS+」の開発と応用 松本洋介 (千葉大学)
11:06	<b>J128a</b> MAGIC 望遠鏡による 50 - 400 GeV における Crab パルサーの波形の精密測定 齋藤隆之 (京都大学)	<b>3月21日(金) 午前・D会場</b>	
<b>3月20日(木) 午後・D会場</b>		09:30	<b>J139a</b> イニフィニット・ストラトスの運動特性と放射性能 福江 純 (大阪教育大学)
13:30	<b>J129a</b> 「すざく」による low/hard 状態にあるブラックホール候補天体 IGR J1709.1-3624 の観測 山岡和貴 (名古屋大学)	09:42	<b>J140a</b> 球対称ブラックホール降着流における熱化面とスペクトル 増田剛大 (大阪教育大学)
13:42	<b>J130a</b> X線天文衛星「すざく」による Very High State にあるブラックホール X線連星 4U 1630-47 の観測 堀 貴郁 (京都大学)	09:54	<b>J141a</b> ブラックホール風の見かけの光球・熱化面とスペクトル: ULX への適用 小倉和幸 (大阪教育大学)
13:54	<b>J131a</b> X線天文衛星「すざく」による low/hard 状態のブラックホール X線連星 H 1743-322 の観測 志達めぐみ (京都大学)	10:06	<b>J142a</b> ブラックホール風の見かけの光球と熱化面とスペクトル: 波長依存性を考慮した計算 富田瑞穂 (大阪教育大学)
14:06	<b>J132a</b> ブラックホール候補天体 MAXI J1828-249 の発見と MAXI が発見検出した 2013 年度後半の突発天体 根来 均 (日本大学)	10:18	<b>J143a</b> X線バースター GRS1747-312 の、静穏状態におけるスペクトル変化 佐治重孝 (名古屋大学)
14:18	<b>J133a</b> MAXI J1910-057 の観測と X線新星における質量降着 中平聡志 (宇宙航空研究開発機構)	10:30	<b>J144a</b> 「すざく」による X線バースター 2XMM J185114.3-000004 からのフレアの観測 馬場 彩 (青山学院大学)
14:30	<b>J134a</b> ブラックホールの曲がった時空の効果を直接検出する原理と方法 齊田浩見 (大同大学)	10:42	<b>J145a</b> 「すざく」衛星で観測された GRS1747-312 からの光球膨張 X線バースト 岩井将親 (東京工業大学 / 宇宙航空研究開発機構)
		10:54	<b>J146a</b> 低質量中性子星の質量公式 祖谷 元 (京都大学)

## J2. 高密度星

3月20日(木) 午前・D会場		3月21日(金) 午後・D会場	
10:06	<b>J201a</b> 強磁場中性子星マグネターの磁気圏における電流シートのダイナミクス 竹重聡史 (京都大学)	13:30	<b>J209a</b> MAXIによる突発的なX線天体の系統的探索 薄井竜一 (東京工業大学)
11:18	<b>J202a</b> NuSTAR Observation of the Intermediate Polar AE Aquarii Takao Kitaguchi (RIKEN)	13:42	<b>J210a</b> SwiftとChandra衛星の連携によるショートバーストの母銀河同定 坂本貴紀 (青山学院大学)
3月21日(金) 午前・D会場		13:54	<b>J211a</b> ガンマ線バーストジェットからの熱的放射のモンテカルロ計算 柴田三四郎 (甲南大学)
11:06	<b>J203b</b> WZ Sge型矮新星の増光早期における輝線の起源 植村 誠 (広島大学)	14:06	<b>J212a</b> ガンマ線バースト発生環境の実際と見 た目 新納 悠 (国立天文台)
11:06	<b>J204b</b> 古典新星V339 Delphini (Nova Del 2013)の増光初期における分光観測(II) 今村和義 (岡山理科大学)	14:18	<b>J213a</b> 超相対論的流体における高エネルギー光子生成過程の輻射輸送解析 石井彩子 (東北大学)
11:06	<b>J205b</b> Swift衛星による古典新星DK LacからのX線放射の発見 武井 大 (理化学研究所/SPring-8)	14:30	<b>J214a</b> 相対論的多次元輻射輸送計算コードの開発 富永 望 (甲南大学)
	<b>J206c</b> 古典新星V339 Delphini (Nova Del2013)の増光初期における分光観測(I) 田邊健茲 (岡山理科大学)		
	<b>J207c</b> 減光が大変遅い新星V4368 Sgrの20年間の測光観測結果 清田誠一郎 (TAO, VSOLJ)		
11:18	<b>J208b</b> 3つのGRBの早期可視残光における偏光のアップーリミット 川端弘治 (広島大学)		

## K. 超新星爆発

3月22日(土) 午前・D会場		3月20日(木) 午前・H会場	
09:30	<b>J215a</b> V339 Del = Nova Delphini 2013 の光赤外線大学間連携 ToO 観測 関口和寛 (国立天文台)	09:30	<b>K01a</b> 初めて親星が直接同定された Ib 型超新星 iPTF13bvn の初期観測 高木勝俊 (広島大学)
09:42	<b>J216a</b> 古典新星 V339 Del の可視光多色測光観測 松浦美波 (大阪教育大学)	09:42	<b>K02a</b> 暗い IIP 型超新星 SN 2013bu の測光分光観測 増本一成 (大阪教育大学)
09:54	<b>J217a</b> 古典新星の絶対等級を求める新しい方法 蜂巢 泉 (東京大学)	09:54	<b>K03a</b> 明るいショックブレイクアウトが見られた IIb 型超新星 SN 2013df の測光分光観測 川端美穂 (大阪教育大学)
10:06	<b>J218a</b> 種族 II の新星について (Novae in Globular Clusters) 加藤万里子 (慶應義塾大学)	10:06	<b>K04a</b> 超新星残骸 3C 391 からの過電離プラズマの発見 佐藤 有 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)
10:18	<b>J219a</b> Be/X-ray binaries 系の Be 円盤での長周期振動の励起 加藤正二 (京都大学 OB)	10:18	<b>K05a</b> Tycho 超新星残骸からの非熱 X 線の放射の時間変動 佐藤寿紀 (首都大学東京)
10:30	<b>J220a</b> ケプラー衛星を使ったおおぐま座 SU 型矮新星の研究 尾崎洋二 (東京大学)		<b>K06c</b> Mapping the Shocked Ejecta in Supernova Remnant G290.1-0.8 Murat Hudaverdi (Yildiz Technical University)
10:42	<b>J221a</b> 全変動最小化を使ったドップラー・トモグラフィー 植村 誠 (広島大学)	10:30	<b>K07a</b> 時間依存エネルギー流入による爆発に関する自己相似解 坪木曜一郎 (東京大学)
10:54	<b>J222a</b> 明らかになってきた period bouncer の姿 中田智香子 (京都大学)	10:42	<b>K08a</b> ニュートリノ駆動型超新星爆発の親星依存性 諏訪雄大 (京都大学)
11:06	<b>J223a</b> 矮新星アウトバースト時の降着円盤における磁気乱流状態 廣瀬重信 (独立行政法人海洋研究開発機構)	10:54	<b>K09b</b> SPH シミュレーションを用いた Ia 型超新星 progenitor モデルの検証 III 佐藤裕史 (東京大学)
11:18	<b>J224a</b> 軟 X 線源 MAXI J0158-744 からの強い NeIX 輝線の起源 大谷友香理 (東京大学)	10:54	<b>K10b</b> 超新星状態方程式テーブルの作成に向けた効率的な非一様相計算 竹原裕太 (東京理科大学)
11:30	<b>J225a</b> 重量級の白色矮星上で発生した新星爆発の点火の瞬間: MAXI J0158-744 森井幹雄 (理化学研究所)		<b>K11c</b> 非球対称な超新星の光度曲線 広野美貴 (日本大学)
11:42	<b>J226a</b> すざく衛星を用いた矮新星における質量降着率の変動の研究 和田師也 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)		

## L. 太陽系

3月19日(水) 午後・H会場		
13:00	<b>L01a</b> アイソン彗星：すばる望遠鏡によるケイ酸塩ダストの中間赤外線観測 大坪貴文（東北大学）	14:48 <b>L13b</b> C/2013 R1(Lovejoy) 彗星の観測とプラズマテイルの擾乱現象 大西浩次（国立長野高専）
13:12	<b>L02a</b> アイソン彗星：偏光観測の結果から 古荘玲子（都留文科大学 / 国立天文台）	14:48 <b>L14b</b> 近地球小惑星 2009 SQ104 の可視光測光分光観測 関口朋彦（北海道教育大学）
13:24	<b>L03a</b> アイソン彗星：何が起きたのか？ 渡部潤一（国立天文台）	15:00 <b>L15b</b> チェリヤビンスク火球の明るさと色の時間変化 柳澤正久（電気通信大学）
13:36	<b>L04a</b> C/2012 S1(ISON) 彗星のプラズマテイルは電波シンチレーションを引き起こしたか？ 伊集朝哉（名古屋大学）	<b>L16c</b> 2009-12年の木星南赤道縞のHazeの光学的厚さの変化について 浅田正（九州国際大学）
13:48	<b>L05a</b> 鹿島局、山口局、茨城局におけるアイソン彗星の電波観測 布施哲治（情報通信研究機構）	
14:00	<b>L06a</b> 幻のアンドロメダ座流星群のMUレーダーによる軌道決定 阿部新助（日本大学）	
14:12	<b>L07a</b> 低速流星群の放射点分布に対する修正効果 佐藤幹哉（かわさき宙と緑の科学館）	
	<b>L08c</b> ふたご座流星群の有痕率の変化について 戸田雅之（日本流星研究会）	
	<b>L09c</b> 2013年ペルセウス座流星群の永続流星痕の高度検出 比嘉義裕（日本流星研究会）	
14:24	<b>L10a</b> 高視野、高感度撮像システムによる太陽系外縁天体の探査 有松 亘（宇宙航空研究開発機構 / 東京大学）	
14:36	<b>L11a</b> 扁長楕円体調和関数で展開された重力場の高速高精度計算 福島登志夫（国立天文台）	
14:48	<b>L12b</b> 「あかり」遠赤外線拡散光全天マップに見られる黄道光微細構造Ⅲ 大坪貴文（東北大学）	



## M. 太陽

3月20日(木) 午後・H会場			
13:30	<b>M01a</b> ひので-IRISの共同観測：プロミネンス 岡本丈典(宇宙航空研究開発機構)	15:06	<b>M13a</b> 半暗部形成前における彩層での傾いた磁場構造の発見 渡邊皓子(京都大学)
13:42	<b>M02a</b> Detecting chromospheric magneto-acoustic wave by using Mg II h&k Yoshiaki Kato (NAOJ)	15:18	<b>M14b</b> 太陽光球起源の吸収線プロファイルで探る対流運動の高さ方向の動的構造 大場崇義(総合研究大学院大学)
13:54	<b>M03a</b> Fine strand-like structure in the corona from MHD transverse oscillations Patrick Antolin (National Astronomical Observatory of Japan (NAOJ))	15:18	<b>M15b</b> 大規模数値計算で明らかにする太陽対流層内部のローカルダイナモ 堀田英之(東京大学)
14:06	<b>M04b</b> Diagnostics of coronal rain in the UV spectral window with IRIS Patrick Antolin (National Astronomical Observatory of Japan (NAOJ))	15:18	<b>M16b</b> 野辺山太陽電波ヘリオグラフと黒点スケッチを用いた統計的解析手法 大辻賢一(国立天文台)
14:06	<b>M05b</b> H $\alpha$ 線による彩層温度構造と加熱過程 馬場楓子(東京大学/国立天文台)	<b>3月21日(金) 午前・H会場</b>	
14:06	<b>M06b</b> 3D Fine-Scale Structure and Dynamics of Solar Polar Faculae 末松芳法(国立天文台)	09:30	<b>M17a</b> 次期太陽観測衛星計画「Solar-C Mission」の提案 渡邊鉄哉(国立天文台)
	<b>M07c</b> 飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡によるエラーマンボムのCaIIK観測 加藤友梨(明星大学)	09:42	<b>M18a</b> Ly $\alpha$ 線偏光分光観測ロケット実験 CLASPの進捗状況とその観測計画 鹿野良平(国立天文台)
	<b>M08c</b> 京都大学飛騨天文台FMTで観測されたモートン波現象に付随するフィラメント噴出の統計的研究 山口雅史(京都大学)	09:54	<b>M19a</b> 量子力学的ハンレ効果を用いた彩層～遷移層の磁場診断手法の検討 石川遼子(国立天文台)
14:18	<b>M09a</b> 熱不安定により励起されるフィラメント内の波動の解析 金子岳史(東京大学)	10:06	<b>M20a</b> 水素原子ライマン $\alpha$ 線におけるハンレ効果の直感的理解 後藤基志(核融合科学研究所)
14:30	<b>M10a</b> 半暗部マイクロジェットの分光観測 勝川行雄(国立天文台)	10:18	<b>M21a</b> HIパッシェン系列のスペクトル線偏光観測を用いた活動領域ジェットの磁場・電場診断 阿南徹(京都大学)
14:42	<b>M11a</b> ひので-実験室プラズマ共同実験による彩層ジェット再現実験 西塚直人(国立天文台)	10:30	<b>M22a</b> He I 10830 Å吸収線の偏光で探るプロミネンス磁場の一般的傾向 花岡庸一郎(国立天文台)
14:54	<b>M12a</b> 多波長解析で探る太陽コロナジェットの速度構造 鄭祥子(京都大学)	10:42	<b>M23a</b> 電波と衛星観測の多波長解析によるコロナのベクトル磁場導出 岩井一正(国立天文台)



		<b>3月21日(金) 午後・H会場</b>
10:54	<b>M24b</b> 野辺山電波ヘリオグラフ及び SDO 衛星を用いたコロナ磁場の推測 宮脇 駿 (茨城大学)	13:30 <b>M35a</b> スーパーフレア星 KIC 9766237, 9944137 の分光学的特性の太陽との比較 野上大作 (京都大学)
	<b>M25c</b> 飛騨天文台ドームレス太陽望遠鏡における彩層偏光分光観測 大井瑛仁 (京都大学)	13:42 <b>M36a</b> 太陽型星におけるスーパーフレアの継続時間とエネルギーの関係 前原裕之 (東京大学)
10:54	<b>M26b</b> NICT 新太陽電波望遠鏡 -II 久保勇樹 (情報通信研究機構)	13:54 <b>M37a</b> 太陽フレアの前兆現象における非熱的粒子の研究 梶田聡史 (東海大学)
	<b>M27c</b> DSCOVR からのリアルタイム太陽風データ受信 II 亙 慎一 (情報通信研究機構)	14:06 <b>M38a</b> 太陽フレアのトリガ過程に関する統計的研究 伴場由美 (名古屋大学)
10:54	<b>M28b</b> ビッグデータ分析手法を用いた宇宙天気予報アルゴリズムの詳細 村主崇行 (京都大学)	14:18 <b>M39a</b> フレア活動領域の形成 : NOAA 11158 の観測・シミュレーション研究 鳥海 森 (東京大学)
11:06	<b>M29b</b> 太陽フレアリコネクションインフローの3次元観測 横山央明 (東京大学)	14:30 <b>M40a</b> 太陽フレアの上部に観測される磁気リコネクション領域の構造 原 弘久 (国立天文台)
11:06	<b>M30b</b> 白色光フレアの高時間・高空間分解観測による発光メカニズムの調査 川手朋子 (京都大学)	14:42 <b>M41a</b> Evidence of electron acceleration around the reconnection X-point in a solar flare 成影典之 (国立天文台)
11:06	<b>M31b</b> 太陽コロナにおける小規模噴出現象のエネルギー収支 神田夏央 (名古屋大学)	14:54 <b>M42a</b> 磁気リコネクションに対する熱伝導の寄与 河野隼也 (東京大学)
11:18	<b>M32b</b> 高精度衝撃波捕捉法を用いた高レイノルズ数磁気流体シミュレーション 簗島 敬 (海洋研究開発機構)	15:06 <b>M43a</b> 彩層蒸発流の電離非平衡計算 今田晋亮 (名古屋大学)
11:18	<b>M33b</b> ひので X 線望遠鏡を用いた SEP により発生する Speckle 解析 野澤 恵 (茨城大学)	15:18 <b>M44a</b> ビッグデータ分析手法を用いた宇宙天気予報アルゴリズムの開発 柴山拓也 (京都大学)
	<b>M34c</b> スペックルマスキング法による画像復元プログラム 一本 潔 (京都大学)	

3月22日(土) 午前・H会場		3月22日(土) 午後・H会場	
09:30	<b>M45a</b> 京都大学飛騨天文台 SMART 望遠鏡 / 高速フレア撮像装置 (FISCH) による白色光フレアの観測 石井貴子 (京都大学)	13:30	<b>M56a</b> 太陽放射層への角運動量輸送と磁場の効果 新行紗弓 (神戸大学)
09:42	<b>M46a</b> 可視光および紫外線連続光観測による白色光フレアの発光源の調査 川手朋子 (京都大学)	13:42	<b>M57a</b> 差動回転分布の反太陽型一太陽型遷移に対する磁場の効果 馬淵 隼 (神戸大学)
09:54	<b>M47a</b> 白色光フレアの発生要因に関する統計的な解析 北川 潤 (名古屋大学)		<b>M58c</b> 子午面流による扁長な星 藤澤幸太郎 (東京大学)
10:06	<b>M48a</b> 2013年5月13日に発生した X クラスフレアの電波と硬 X 線の同時観測 増田 智 (名古屋大学)	13:54	<b>M59a</b> 太陽の 11 年周期活動とともに変動する活動領域磁気ヘリシティの統計分布 萩野正興 (京都大学)
10:18	<b>M49a</b> 静穏領域における空間平均ドップラー速度の温度依存性 北川直優 (東京大学)	14:06	<b>M60a</b> ひので SOT/SP データを用いた活動領域の電流ヘリシティの統計解析 大辻賢一 (国立天文台)
10:30	<b>M50a</b> AMATERAS によって観測された太陽電波 type-II バースト中の微細構造の特性 (II) 佐藤伸太郎 (東北大学)	14:18	<b>M61a</b> 太陽活動指数としてのマイクロ波電波フラックス 柴崎清登 (国立天文台)
10:42	<b>M51a</b> AMATERAS によって観測された太陽電波 IV 型バースト中の zebra pattern の出現特性 金田和鷹 (東北大学)	14:30	<b>M62a</b> 野辺山太陽電波ヘリオグラフを用いたジャイロレゾナンス放射の統計的解析 田中悠基 (京都大学)
	<b>M52c</b> 東北大学 HF ~ VHF 帯太陽電波観測装置の開発 -II 三澤浩昭 (東北大学)		
10:54	<b>M53a</b> 大規模数値計算による太陽表面角速度勾配層の実現 堀田英之 (東京大学)		
11:06	<b>M54a</b> 回転成層対流が励起する $\alpha^2$ ダイナモモードの時空間進化 政田洋平 (神戸大学)		
11:18	<b>M55a</b> インヤン = デカルトコードによる太陽ダイナモシミュレーション 陰山 聡 (神戸大学)		

## N. 恒星

3月20日(木) 午後・B会場		3月21日(金) 午前・B会場	
13:30	<b>N01a</b> 中間赤外線で大きな増光が見られた天体について 小野里宏樹 (東北大学)	09:30	<b>N13a</b> Dust and Chemical Abundances of the halo Planetary Nebula K648 in M15 大塚雅昭 (ASIAA)
13:42	<b>N02a</b> LSP 変光星～ダストシェルモデルの検証～ 高山正輝 (東北大学)	09:42	<b>N14a</b> 球状星団における元素組成異常と水平分枝形状の起源 須田拓馬 (国立天文台)
13:54	<b>N03a</b> 赤外線天文衛星「あかり」指向観測による星周塵殻の遠赤外線撮像 植田稔也 (デンバー大学 / 宇宙航空研究開発機構)	09:54	<b>N15a</b> 自転する初代星の元素合成計算 高橋 亘 (東京大学)
14:06	<b>N04a</b> Dust shell around WISE J180956.27-330500.2 II. Subaru/COMICS observation and dust shell modeling 山村一誠 (宇宙航空研究開発機構)	10:06	<b>N16a</b> 恒星の自転の進化 II - 慣性モーメントの変動の金属量依存性 勝田 豊 (北海道大学)
14:18	<b>N05a</b> 新星周囲でのダスト形成過程の理解 左近 樹 (東京大学)	10:18	<b>N17a</b> スーパーフレアを起こした自転の遅い太陽型星の高分散分光観測 野津湧太 (京都大学)
14:30	<b>N06a</b> 高密度環境下で爆発した超新星 SN2010jl の塵粒子生成と星周物質 前田啓一 (京都大学)	10:30	<b>N18a</b> MAXI による4年間の巨大恒星フレアサーベイ 坪井陽子 (中央大学)
14:42	<b>N07a</b> 種族 III 巨大質量星の赤色超巨星星風中における炭素質ダスト形成 野沢貴也 (東京大学)	10:42	<b>N19a</b> スーパーナイクイスト星震学 柴橋博資 (東京大学)
14:54	<b>N08b</b> 中心集中した双極状惑星状星雲の低温ダストオーラスの検出 浅野健太郎 (東京大学)	10:54	<b>N20a</b> Asteroseismology of solar-like type stars: the era of the spaceborne instruments CoRoT and Kepler Othman Michel (University of Tokyo, Tokyo)
14:54	<b>N09b</b> Physical Properties of Fullerene-containing Galactic Planetary Nebulae 大塚雅昭 (ASIAA)	11:06	<b>N21a</b> New results in the modeling of massive star pulsations Melanie Godart (Tokyo Univ.)
14:54	<b>N10b</b> 近赤外線高分散分光によるセファイドの金属量の導出: 恒星大気パラメータの決定方法 福江 慧 (東京大学)	11:18	<b>N22a</b> 自転星の特異な固有振動モード、ロゼットモードについて 高田将郎 (東京大学)
15:06	<b>N11a</b> Interaction between a Pulsar Wind and a Be Star in the Gamma-ray Binary HESS J0632+057 岡崎敦男 (北海学園大学)	11:30	<b>N23a</b> 非常に明るい星の脈動に現れるストレンジモードの励起について 園井崇文 (東京大学)
15:18	<b>N12a</b> 3D Dynamic Models of X-ray Emission from Massive-star Binaries Christopher M. P. Russell (Hokkai-Gakuen Univ.)	11:42	<b>N24b</b> 活動的な太陽型星風における降着相の出現と回復 寺西恭雅 (名古屋大学)

## P1. 星・惑星形成

<b>3月21日(金) 午前・F会場</b>			
10:54	<b>P101b</b> すばる 8.2m 望遠鏡 / MOIRCS を用いたへび座分子雲における若い超低質量天体の探査観測 佐藤太基 (埼玉大学)	14:18	<b>P112a</b> SMA による “face-on” 大質量原始星候補天体 G353 の高分解能観測 元木業人 (山口大学)
10:54	<b>P102b</b> すばる望遠鏡を用いた S106 における若い超低光度天体の分光観測 高原佑典 (埼玉大学)	14:30	<b>P113b</b> 6.7 GHz メタノール・メーザーの周期強度変動探査 II : 100 日周期天体 杉山孝一郎 (山口大学)
10:54	<b>P103b</b> へびつかい座分子雲における若い惑星質量天体の探査観測 星 久樹 (埼玉大学)	14:30	<b>P114b</b> EAVN による 6.7 GHz メタノール・メーザーの VLBI サーベイ VII : 楕円形状天体の固有運動 まとめ 杉山孝一郎 (山口大学)
11:06	<b>P104b</b> 星周円盤形成における質量降着率と磁気制動の関係 町田正博 (九州大学)	14:30	<b>P115b</b> NGC2264 における原始星の X 線長期的変動 兼藤聡一郎 (中央大学)
11:06	<b>P105b</b> SPH 法のための磁気散逸スキームの開発とその星形成シミュレーションへの応用 塚本裕介 (名古屋大学)	14:42	<b>P116a</b> 野辺山 45m 電波望遠鏡を用いた Bok-Globule FeSt 1-457 の OTF 観測 岡本雄大 (茨城大学)
	<b>P106c</b> 質量降着率の時間変動における円盤内側領域の役割 大谷卓也 (大阪大学)	14:54	<b>P117a</b> Mopra mapping observations with multi-lines of dense cores in Lupus I 清兼和紘 (東京大学)
	<b>P107c</b> 原始惑星系円盤中でのクランプの潮汐破壊 加藤広樹 (大阪大学)	15:06	<b>P118a</b> L1544 分子雲コアにおける化学組成と速度構造 種倉平晃 (大阪府立大学)
<b>3月21日(金) 午後・F会場</b>		15:18	<b>P119b</b> W4 West (AFGL333-Ridge) 領域におけるアンモニア分子輝線観測 副島隆史 (大分大学)
13:30	<b>P108a</b> SMA による遷移円盤天体 PDS 70 の高解像度電波干渉計観測 橋本 淳 (オクラホマ大学)	15:18	<b>P120b</b> 星団形成過程の調査のための分子雲コアの統計的研究 下井倉ともみ (東京学芸大学)
13:42	<b>P109a</b> SO 輝線で見える原始星エンベロープ中の高温リング構造 小屋松進 (東京大学 / 国立天文台)	15:18	<b>P121b</b> Probing Initial Conditions of Star Cluster Formation in Serpens South 中村文隆 (国立天文台)
13:54	<b>P110a</b> ALMA によるオリオン KL 電波源 I における星周ガス円盤の観測 廣田朋也 (国立天文台)	15:30	<b>P122b</b> 星団形成領域 Serpens Cluster B の近赤外線偏光観測 岡田方孝 (名古屋市立大学)
14:06	<b>P111a</b> ALMA によるおおかみ座 Class 0 原始星 IRAS 15398-3359 の観測 大屋瑤子 (東京大学)	15:30	<b>P123b</b> 分子雲におけるフィードバックの影響 島 和宏 (北海道大学)
		15:30	<b>P124b</b> 初代星形成質量降着期の3次元シミュレーション 細川隆史 (東京大学)

## P2. 星・惑星形成

3月22日(土) 午前・F会場	3月20日(木) 午前・F会場
09:30 <b>P125a</b> Confronting Outflow-Regulated Cluster Formation Model with Observations 中村文隆 (国立天文台)	09:30 <b>P201a</b> 原始惑星系円盤内のダストの衝突圧縮と断面積 - 質量比の進化 陶山 徹 (長野市立博物館)
09:42 <b>P126a</b> Mopra 望遠鏡を用いた Hii 領域 RCW 120 に対する CO 輝線観測 : 分子雲衝突による大質量星形成 鳥居和史 (名古屋大学)	09:42 <b>P202a</b> 高空隙ダストの光学特性と原始惑星系円盤における観測可能性 片岡章雅 (国立天文台 / 総合研究大学院大学)
09:54 <b>P127a</b> Mopra 望遠鏡と ASTE 望遠鏡を用いた Spitzer バブルの CO 分子輝線観測 服部有祐 (名古屋大学)	09:54 <b>P203a</b> 中心星輻射圧による円盤表層部のダストの外向き移動について (II) 田崎 亮 (京都大学)
10:06 <b>P128a</b> Enzo code を用いた分子雲衝突による大質量星コアの形成 高平 謙 (北海道大学)	10:06 <b>P204a</b> 原始惑星系円盤におけるダストの成長と沈殿および shear 不安定の可能性 長谷川幸彦 (大阪大学)
10:18 <b>P129a</b> 大質量フィラメントの進化過程 岩崎一成 (名古屋大学)	10:18 <b>P205a</b> 原始惑星系円盤におけるダスト成長および堆積と輻射輸送解析 村川幸史 (大阪産業大学)
10:30 <b>P130a</b> 横向きの磁場を持ったフィラメント状星間雲の密度・磁場構造 富阪幸治 (国立天文台 / 総合研究大学院大学)	10:30 <b>P206a</b> 惑星の大きさは原始惑星系円盤中の乱流の強さが決める 小林 浩 (名古屋大学)
10:42 <b>P131a</b> 若い大質量原始星 NGC 2264 CMM3 における 0.8 mm 帯分子輝線サーベイ 渡邊祥正 (東京大学)	10:42 <b>P207a</b> ガス-ダスト間摩擦と自己重力による原始惑星系円盤のリング構造形成機構 高橋実道 (京都大学 / 名古屋大学)
10:54 <b>P132a</b> Non-thermal Desorption in the Cold Molecular Cloud: TMC-1 相馬達也 (東京大学)	10:54 <b>P208a</b> 光蒸発を考慮した中質量星周りの原始惑星系円盤の散逸 國友正信 (東京工業大学)
11:06 <b>P133a</b> 低金属量ガス雲の重力収縮シミュレーション I 千秋 元 (東京大学)	11:06 <b>P209b</b> 2層モデルを用いた原始惑星系円盤の X 線電離計算 奥住 聡 (東京工業大学)
11:18 <b>P134a</b> 宇宙初期の超大質量星形成に乱流が与える影響 稲吉恒平 (京都大学)	11:06 <b>P210b</b> 中心星及び近傍の大質量星による光蒸発を考慮した円盤進化の考察 小野智弘 (京都大学)
11:30 <b>P135a</b> 始原的星形成ガス雲の non-biased サンプル : 種族 III.2 星の IMF への寄与 平野信吾 (東京大学)	11:06 <b>P211b</b> 大局磁場の進化を考慮した原始惑星系円盤の面密度構造の進化 竹内 拓 (東京工業大学)
	11:18 <b>P212b</b> 巨大惑星周りの原始惑星系円盤のガス構造 : 円盤ギャップの形成モデル 金川和弘 (北海道大学)



11:18	<b>P213b</b> 離心率を持つ連星と原始惑星系円盤の永年共鳴 - 非線形計算の結果 - 今枝佑輔 (東京工業大学)	14:54	<b>P224a</b> 重力マイクロレンズ法による惑星候補イベント OGLE-2012-BLG-0724/ MOA-2012-BLG-323 福永大輔 (名古屋大学)
11:18	<b>P214b</b> 近赤外直接撮像観測による HD 15115 に付随するデブリ円盤の空間構造の解明 蔡承亨 (兵庫県立大学)	15:06	<b>P225a</b> 重力マイクロレンズ法における過去の未解析の惑星候補イベント 10 例の解析 越本直季 (大阪大学)
<b>3月20日(木) 午後・F会場</b>		15:18	<b>P226b</b> 神山天文台における重力マイクロレンズ現象のフォローアップ観測 山井直斗 (京都産業大学)
13:30	<b>P215a</b> ALMA を用いた分子輝線観測による円盤風の検出 石本大貴 (京都大学)	15:18	<b>P227b</b> ガス惑星からの質量放出計算手法の改善: 低温大気の場合 田中佑希 (名古屋大学)
13:42	<b>P216a</b> あかりと IRSF によるデブリ円盤の探査 石原大助 (名古屋大学)	15:18	<b>P228b</b> ASTE 望遠鏡による海王星大気中の硫化物分子サーベイの初期成果 飯野孝浩 (名古屋大学)
13:54	<b>P217a</b> すばる望遠鏡戦略枠観測「SEEDS」による原始惑星系円盤および系外惑星探査 IV 工藤智幸 (国立天文台)	<b>3月21日(金) 午前・F会場</b>	
	<b>P218c</b> 直接撮像による若い恒星周りの遠方惑星と原始惑星系円盤の探査 2 呉大鉉 (総合研究大学院大学)	09:30	<b>P229a</b> 散開星団における惑星系の生存率 藤井通子 (国立天文台)
	<b>P219c</b> Subaru/HiCIAO を用いた 5pc 以内の太陽型星における巨大ガス惑星探査 水木敏幸 (東北大学)	09:42	<b>P230a</b> アstrometri法による褐色矮星周りの惑星探査 山口正輝 (国立天文台)
14:06	<b>P220a</b> 太陽系外惑星の惑星軌道移動に関する直接撮像法を用いた研究 高橋安大 (東京大学)	09:54	<b>P231a</b> すばる IRD による M 型矮星周りの地球型惑星探索 I: 観測計画 大宮正士 (東京工業大学)
14:18	<b>P221a</b> 長周期視線速度変化を示す中質量巨星に対する直接撮像 笠嗣瑠 (総合研究大学院大学)	10:06	<b>P232a</b> Kepler-51 系における低密度惑星の発見 増田賢人 (東京大学)
14:30	<b>P222a</b> The CHARIS Data Extraction Software: Integral Field Spectroscopy at High Contrast Kyle Mede (The University of Tokyo)	10:18	<b>P233a</b> 皆既月食を利用した地球大気透過光の高分散分光観測 川内紀代恵 (東京工業大学)
14:42	<b>P223a</b> MOA-II による系外惑星探査: 2013 年の結果 鈴木大介 (大阪大学)	10:30	<b>P234a</b> ハビタブルゾーンの内端からの距離と温室効果 堂ヶ崎知誠 (明星大学/国立天文台)
		10:42	<b>P235a</b> SPART 望遠鏡による金星の一酸化炭素の観測と Venus Express による粒子観測との比較解析 池田喜則 (大阪府立大学)



## Q. 星間現象

3月20日(木) 午後・C会場		3月21日(金) 午前・C会場	
13:30	<b>Q01a</b> 暗黒ガスに占める冷たいHIガスの割合 土橋一仁(東京学芸大学)	09:30	<b>Q11a</b> 銀河系中心部銀経正方向の分子雲 ループ探査 白井 僚(名古屋大学)
13:42	<b>Q02a</b> Planck 衛星のサーベイデータと星間ガスの比較解析 1: 全天での比較 早川貴敬(名古屋大学)	09:42	<b>Q12a</b> 銀河系中心部いて座A領域南の高銀緯・高速度分子雲の発見 榎谷玲依(名古屋大学)
13:54	<b>Q03a</b> Planck 衛星のサーベイデータと星間ガスの比較解析 2: 高銀緯領域における比較 岡本竜治(名古屋大学)	09:54	<b>Q13a</b> Sgr A* および Circumnuclear disk 方向の3mm帯ラインサーベイ観測-2 竹川俊也(慶應義塾大学)
14:06	<b>Q04a</b> Planck 衛星のサーベイデータと星間ガスの比較解析 3: オリオン座領域での比較 山本宏昭(名古屋大学)	10:06	<b>Q14a</b> 大マゼラン雲の分子雲に対する3mm帯スペクトルラインサーベイ 1. 高密度ガス探査 下西 隆(神戸大学)
14:18	<b>Q05a</b> Planck 衛星のサーベイデータと星間ガスの比較解析 4: HI雲の速度構造 立原研悟(名古屋大学)	10:18	<b>Q15a</b> 大マゼラン雲の分子雲に対する3mm帯スペクトルラインサーベイ 2. 高感度観測 西村優里(東京大学)
14:30	<b>Q06a</b> Planck 衛星のサーベイデータと星間ガスの比較解析 5: 低温高密度の水素原子相の吟味 福井康雄(名古屋大学)	10:30	<b>Q16a</b> Discovery of Absorption Features of CH <sub>3</sub> NH <sub>2</sub> towards SgrB2(M) 大石雅寿(国立天文台)
14:42	<b>Q07a</b> Westerlund 2 方向の円弧状の分子ガス形成の磁気流体計算 朝比奈雄太(千葉大学)	10:42	<b>Q17a</b> CH <sub>2</sub> NH の多天体探査と形成過程 鈴木大輝(総合研究大学院大学)
14:54	<b>Q08a</b> Cloud-cloud Collision in the Galactic Center 50 km s <sup>-1</sup> Molecular Cloud Tsuboi Masato(宇宙航空研究開発機構)	10:54	<b>Q18a</b> OH 基底状態遷移の吸収線の発見と統計平衡計算による解析 猪熊宏士(東京大学)
15:06	<b>Q09a</b> 銀河中心分子雲 M0.76-0.06: MDR(力学過程卓越領域)の典型か? 宮崎敦史(韓国天文研究院)	11:06	<b>Q19a</b> Mopra 望遠鏡による超新星残骸 RX J1713.7-3946 の観測(II) 佐野栄俊(名古屋大学)
15:18	<b>Q10a</b> 銀河系中心高速度コンパクト雲 CO-0.30-0.07 の内部構造 田中邦彦(慶應義塾大学)	11:18	<b>Q20b</b> 銀河中心領域を想定したアンモニア反転遷移輝線の吸収を含む放射強度モデル 永井 誠(筑波大学)
		11:18	<b>Q21b</b> Diffuse interstellar bands の同定に向けたフェニルチオラジカルの実験室分光 荒木光典(東京理科大学)

3月21日(金) 午後・C会場		3月22日(土) 午前・C会場	
13:30	<b>Q22a</b> 矮小楕円銀河の HII 領域が示唆する銀河形態の変化 釜谷秀幸 (防衛大学校)	09:30	<b>Q31a</b> 銀河系中心から南北に伸びる双極状 X 線放射の発見3 中島真也 (京都大学)
13:42	<b>Q23a</b> プラズマ照射実験によるフラレーンの変性と炭素質ダストの化学進化 佐藤一輝 (東京大学)	09:42	<b>Q32a</b> すざく/チャンドラを用いた星形成領域 RCW 38 の X 線解析 小高裕和 (宇宙航空研究開発機構)
13:54	<b>Q24a</b> 「あかり」衛星による我々の銀河系内の HII 領域の近赤外線分光観測 II 森 珠実 (東京大学)	09:54	<b>Q33a</b> X 線天文衛星「すざく」による超新星残骸 RCW86 での宇宙線加速の系統的研究 坪根義雄 (青山学院大学)
14:06	<b>Q25a</b> 「あかり」で探る Trifid nebula M20 領域の分子雲衝突の痕跡 金田英宏 (名古屋大学)	10:06	<b>Q34a</b> 「すざく」によるガンマ線超過 Cygnus Cocoon の X 線調査 田邊利明 (広島大学)
14:18	<b>Q26a</b> Variations in the 3.3 $\mu$ m feature with galactic environment Mark Hammonds (University of Tokyo)	10:18	<b>Q35a</b> Suzaku 衛星による超新星残骸 RX J0852.0-4622 の X 線全域観測 福山太郎 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)
14:30	<b>Q27a</b> 近赤外線高分散分光器 WINERED による新たな DIB の検出 濱野哲史 (東京大学)	10:30	<b>Q36a</b> Mixed-Morphology 型超新星残骸 Kes27 のプラズマの電離状態について 南 沙里 (奈良女子大学)
14:42	<b>Q28a</b> 星形成領域における近赤外 DIBs と電離フラレーン $C_{60}^+$ の関係 岡本理奈 (信州大学)	10:42	<b>Q37a</b> すざく衛星による超新星残骸 G350.1-0.3 と G349.7+0.2 の観測 八隅真人 (京都大学)
14:54	<b>Q29a</b> エンスタタイト多形にみる赤外吸収スペクトルの多様性 茅原弘毅 (大阪産業大学)	10:54	<b>Q38a</b> 超新星残骸での $H\alpha$ 輝線放射と非熱的 X 線放射で測定した膨張速度の差異の理論的考察 霜田治朗 (青山学院大学)
	<b>Q30c</b> Probing Origins of Anomalous Microwave Emission with AKARI Aaron C. Bell (University of Tokyo, Grad. School of Science)	11:06	<b>Q39a</b> 部分電離プラズマ中の無衝突衝撃波の構造 大平 豊 (青山学院大学)
		11:18	<b>Q40a</b> 高マッハ数の準平行衝撃波における陽子と電子の加速 加藤恒彦 (広島大学)
		11:30	<b>Q41a</b> 磁気リコネクションの流入域における電子加速とプラズマ波動 藤本桂三 (国立天文台)

## R. 銀河

11:42	<b>Q42b</b> 共生星からの鉄輝線放射と銀河面リッジ X 線放射への寄与 海老沢 研 (宇宙航空研究開発機構)	<b>3月20日(木) 午前・G会場</b>	
11:42	<b>Q43b</b> 「すざく」による TeV パルサー星雲 HESS J1356-645 の観測 (2) 井澤正治 (東京工業大学)	10:42	<b>R01a</b> 銀河磁場と星間空間の歪み 新村公剛 (新村公剛公認会計士事務所)
11:42	<b>Q44b</b> ASTRO-H 搭載搭載 SXS による精密 X 線分光でめざす超新星残骸衝撃波における超熱的電子の検出 澤田真理 (青山学院大学)	10:54	<b>R02a</b> 銀河ダイナモの高次精度大局的 3 次元磁気流体シミュレーション 工藤祐己 (千葉大学)
11:54	<b>Q45b</b> The Fermi Bubbles as a Scaled-up Version of Supernova Remnants 藤田 裕 (大阪大学)	11:06	<b>R03a</b> 銀河構造は分子雲の性質や進化に影響を与えるか? 藤本裕輔 (北海道大学)
	<b>Q46c</b> 球対称パルサー星雲モデルでの輝度分布 田中周太 (東京大学)	11:18	<b>R04b</b> 近傍銀河における分子ガス中心集中度と星形成の関係 馬路博之 (大阪府立大学)
	<b>Q47c</b> ガンマ線散開星団 RSGC 1 が置かれている環境 藤田 裕 (大阪大学)	<b>3月20日(木) 午後・G会場</b>	
	<b>Q48c</b> 磁気回転不安定性の成長における宇宙線の効果 桑原匠史 (アドバンスソフト株式会社)	13:30	<b>R05a</b> Enhancement of Star Formation by Galactic bar in NGC 6946 Hsi-An Pan (SOKENDAI/NRO)
		13:42	<b>R06a</b> CO (J=3 → 2) Emission in the Starburst Galaxy NGC 1808 Dragan Salak (University of Tsukuba)
		13:54	<b>R07a</b> N 体シミュレーションによる銀河渦状腕の形状の解析 道越秀吾 (同志社大学)
		14:06	<b>R08a</b> M 51 の HST 測光データによる銀河考古学～ offset 法 revisited ～ II. 長谷川 隆 (群馬県立ぐんま天文台)
		14:18	<b>R09a</b> MPR 法を用いた軸対称 stäckel ポテンシャルに対する M2M 法 田川寛通 (東京大学)
			<b>R10c</b> 自己重力ハロー中の銀河円盤で形成されるバーの特性について 穂積俊輔 (滋賀大学)
		14:30	<b>R11a</b> MOA-II の重力マイクロレンズによる銀河系バー構造の解明 住 貴宏 (大阪大学)

14:42	<b>R12a</b> KWFC 銀河面変光天体探査 (KISOGP)-II 松永典之 (東京大学)	<b>3月21日(金) 午前・G会場</b>	09:30	<b>R19a</b> SMBH-IMBH 連星と G2 like なガス雲の相互作用 船渡陽子 (東京大学)
	<b>R13c</b> 銀河円盤の外縁部構造への環境効果 II 隈井泰樹 (熊本学園大学)		09:42	<b>R20a</b> Suzaku By-Week Monitoring of the Galactic Center Sgr A* in X-rays 前田良知 (宇宙航空研究開発機構)
14:54	<b>R14a</b> アンドロメダストリームで探る母矮小銀河の内部構造 桐原崇亘 (筑波大学)		09:54	<b>R21a</b> 銀河系 Nuclear Star Cluster に広く分布する年齢 50-500Myr の星 西山正吾 (国立天文台)
15:06	<b>R15b</b> 矮小楕円体銀河の化学力学進化 平居 悠 (東京大学)		10:06	<b>R22a</b> 電波銀河 Hydra A で見つかった巨大ガス円盤 藤田 裕 (大阪大学)
15:06	<b>R16b</b> 矮小銀河の形態による化学進化の違い 深川奈桜 (国際基督教大学)		10:18	<b>R23a</b> レンズクエーサーを用いた多視線による高赤方偏移吸収体の諸性質の解明 小山田涼香 (信州大学)
15:06	<b>R17b</b> Too Big To Fail 問題の解決に向けた暗黒物質サブハローの力学進化の研究 小室佑介 (東北大学)		10:30	<b>R24a</b> 広域探査による赤方偏移2の星形成銀河のクラスタリング解析 石川将吾 (総合研究大学院大学)
15:18	<b>R18a</b> 大規模 GPU クラスタを用いて探る M31 ハローを漂う超巨大ブラックホールの現在位置 三木洋平 (筑波大学)		10:42	<b>R25a</b> AKARI/IRC を用いた、赤外線銀河内の埋もれた活動銀河核の探査とその赤外線光度への寄与の見積もり 市川幸平 (京都大学)
			10:54	<b>R26a</b> AKARI FIS-WISE マッチングによる (U)LIRGs の探索 小山舜平 (東京工業大学 / 宇宙航空研究開発機構)
			11:06	<b>R27a</b> 北黄極多波長ディープサーベイ領域で見つかった Dust Obscured Galaxies の性質 大井 渚 (宇宙航空研究開発機構)

## S. 活動銀河核

3月21日(金) 午後・G会場	
13:30	<b>S01a</b> VLBA アーカイブデータの多周波解析による M 87 の中心核付近での吸収スペクトルの検出 松澤 歩 (総合研究大学院大学)
13:42	<b>S02a</b> M87における2012年 TeV $\gamma$ 線活動に同期したブラックホール近傍数10シュバルツシルト半径以内からの強い電波増光の検出 秦 和弘 (国立天文台 / イタリア電波天文学研究所)
13:54	<b>S03a</b> Event Horizon Telescope (230 GHz VLBI) で探る巨大電波銀河 M87 の TeV $\gamma$ 線活動期間中における超巨大ブラックホール最近傍の構造 秋山和徳 (東京大学)
14:06	<b>S04a</b> GENJI プログラム :VLBI モニター観測による電波銀河 3C 84 の長期変動 千田 華 (東海大学 / 国立天文台)
14:18	<b>S05a</b> VERA による低光度 AGN M84 中心核の2周波 (22.43GHz) 同時観測 中原聡美 (鹿児島大学)
14:30	<b>S06a</b> Sy2 型銀河 NGC 5495 の H <sub>2</sub> O メーザー観測, 大質量ブラックホールの証拠 舟橋史祥 (筑波大学)
14:42	<b>S07a</b> ガス雲 G2 の衝突による銀河中心 Sgr A* 高温降着流内部での磁場増幅と降着率変化 川島朋尚 (上海天文台)
14:54	<b>S08b</b> VERA/KaVA で探る銀河系中心の巨大ブラックホールへのガス降着現象 秋山和徳 (東京大学)
14:54	<b>S09b</b> 短基線 VLBI による Sagittarius A* の2014年事象のモニター観測 坪井昌人 (宇宙航空研究開発機構)
14:54	<b>S10b</b> NICT 鹿島 - 小金井基線 VLBI システムによる Sgr A* 強度モニター観測 -2 竹川俊也 (慶應義塾大学)
15:06	<b>S11b</b> 輻射輸送コード Cloudy を用いた活動銀河核広輝線領域の Fe/Mg 組成比の診断 鮫島寛明 (宇宙航空研究開発機構)
15:06	<b>S12b</b> アウトフローガスとクエーサー光度の示す時間変動の関係 堀内貴史 (信州大学)
15:06	<b>S13b</b> 相対論的アウトフローの放射流体モデル 中田めぐみ (日本大学)
	<b>S14c</b> 電子・陽電子対プラズマの相対論的アウトフロー 牧之段直弘 (日本大学)
	<b>S15c</b> 相対論的ジェットの外部光子場によるコンプトン冷却率 楠瀬正昭 (関西学院大学)
	<b>S16c</b> 最高エネルギー宇宙線加速源候補天体 2FGL J0939.1-1734 のすばる望遠鏡による可視分光観測 加賀谷美佳 (茨城大学)
15:18	<b>S17b</b> 「あかり」中間・遠赤外線全天サーベイカタログと XMM-Newton Serendipitous Source カタログを用いた埋もれた活動銀河核の探索 寺島雄一 (愛媛大学)
15:18	<b>S18b</b> 「すざく」による低光度活動銀河核の広帯域 X線スペクトルとそのトーラス構造の理解 川室太希 (京都大学)
15:18	<b>S19b</b> 全天 X線監視装置 MAXI による活動銀河核の X線強度変動の観測 橘優太郎 (東京工業大学)
	<b>S20c</b> Subaru/XMM-Newton Deep Survey 領域における X線選択された活動銀河核の空間相関 水野翔太 (京都大学)

3月22日(土) 午前・G会場		3月22日(土) 午後・G会場	
09:30	<b>S21a</b> SED fitting を用いた高赤方偏移クェーサーの検出 尾上匡房 (総合研究大学院大学)	13:30	<b>S31a</b> 電波銀河 M87 におけるジェットと星間物質との相互作用 大曾根聡子 (元産業技術総合研究所)
09:42	<b>S22a</b> 高赤方偏移クェーサーのダストーラス放射とその中心核環境の関係 大藪進喜 (名古屋大学)	13:42	<b>S32a</b> 「すざく」による電波銀河 Fornax A 東ローブのX線観測 瀬田裕美 (立教大学)
09:54	<b>S23a</b> 母銀河からの赤外線放射の影響を考慮した活動銀河核ダストーラスの光度依存性の検証 鳥羽儀樹 (総合研究大学院大学 / 宇宙航空研究開発機構)	13:54	<b>S33a</b> FR II 型電波銀河 Pictor A のホットスポットにおける多波長偏光観測 笹田真人 (京都大学)
10:06	<b>S24a</b> AGN の放射にさらされたガス雲の放射流体計算 II. 行方大輔 (筑波大学)	14:06	<b>S34a</b> 活動銀河核の ultra-fast outflow における高エネルギー粒子加速と多波長非熱的放射 井上 進 (Max-Planck-Institut für Physik/ 東京大学)
10:18	<b>S25a</b> ラインフォース駆動型円盤風の放射流体シミュレーションによる Ultra-fast outflow の起源の解明 野村真理子 (お茶の水女子大学 / 国立天文台)	14:18	<b>S35a</b> 相対論ジェットにおける可視偏光方位角と電波ジェット位置角との相関 伊藤亮介 (広島大学)
10:30	<b>S26a</b> MAGNUM プロジェクト : 近傍セイファート銀河の変光成分色指数分布 越田進太郎 (Universidad Católica de Chile)	14:30	<b>S36a</b> Gamma-ray loud Narrow-line Seyfert-1, 1H 0323+342 の長期多波長観測 林田将明 (東京大学)
10:42	<b>S27a</b> X線と可視光の同時観測で迫る NGC 3516 セントラルエンジンの構造 野田博文 (東京大学)	14:42	<b>S37a</b> MAGIC 望遠鏡による BL Lac 天体 MAGIC J2001+435 の観測結果と赤方偏移 小谷一仁 (東海大学)
10:54	<b>S28a</b> IC4329A における時間変動を用いたモデル依存しない成分分解 (2) 三宅克馬 (東京大学)	14:54	<b>S38a</b> MAGIC 望遠鏡による遠方ブレイザー H 1722+119 の観測 齋藤浩二 (東京大学)
11:06	<b>S29a</b> Swift J1644+57 が示す巨大ブラックホール降着円盤の状態遷移 松元亮治 (千葉大学)	15:06	<b>S39a</b> フェルミ衛星による $z=1.1$ ブレイザー PKS 0426-380 からの超高エネルギーガンマ線 ( $E>100$ GeV) の検出 田中康之 (広島大学)
11:18	<b>S30a</b> 電波強度の大きな活動銀河核の X線観測による系統的研究 (II) 田崎文得 (京都大学)		



## T. 銀河団

## U. 宇宙論

3月19日(水) 午後・F会場		3月19日(水) 午後・C会場	
13:00	<b>T01a</b> Subaru Weak-Lensing Survey of Dark Matter Subhalos in the Coma Cluster : Subhalo Mass Function and Statistical Properties 岡部信広 (東京大学 / Kavli IPMU)	13:00	<b>U01a</b> SKA時代に銀河間磁場のRMを統計的に探る方法 赤堀卓也 (シドニー大学)
13:12	<b>T02a</b> プランク銀河団カタログを用いた非常に明るい中心核を持つ銀河団中心銀河の探査 上田周太郎 (大阪大学)	13:12	<b>U02a</b> 原初磁場を考慮したビッグバン元素合成 山崎 大 (国立天文台)
13:24	<b>T03a</b> 銀河団 Abell 1674 と異った赤方偏移で重なる新たな銀河団の発見 井上翔太 (大阪大学)		<b>U03c</b> ビッグバン元素合成からのニュートリノの縮退パラメータに対する制限 一政遼太郎 (九州大学)
13:36	<b>T04a</b> Investigation of Interactions Between the Hot Plasmas and Galaxies in Galaxy Clusters V LIYI GU (RESCEU, the University of Tokyo)	13:24	<b>U04a</b> 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEAR による最初の結果 茅根裕司 (高エネルギー加速器研究機構)
13:48	<b>T05a</b> 「すざく」による $z \sim 0.1$ に位置する銀河団のビリアル半径の重元素組成 小波さおり (首都大学東京)	13:36	<b>U05a</b> Delensing B-mode polarization of LiteBIRD observation using ground-based CMB experiments 並河俊弥 (京都大学)
14:00	<b>T06a</b> 巨大銀河団のビリアル半径までのガス質量、鉄質量と銀河光度の比 佐々木 亨 (東京理科大学)	13:48	<b>U06a</b> 宇宙論的2次摂動論における背景重力波の正確な解析 嵯峨承平 (名古屋大学)
14:12	<b>T07a</b> すざく衛星を用いた大規模構造銀河フィラメントの交差点に付随した高温ガス探査 三石郁之 (首都大学東京)		<b>U07c</b> 高次元宇宙モデルにおけるインフレーション起源の背景重力波 篠崎裕治 (日本大学)
14:24	<b>T08b</b> すざく衛星による 1RXS J0603.3+4214 の電波レリック周辺領域の観測 板花まどか (山形大学)	14:00	<b>U08a</b> 低質量ハローからの 21cm 線放射に対する非局率揺らぎの影響 竹内良貴 (名古屋大学)
14:24	<b>T09b</b> 早期型銀河のガス放出過程と銀河団の化学進化 竹之内葉子 (国際基督教大学)	14:12	<b>U09a</b> Probing the Primordial Power Spectrum at Small Scales 朱 睿東 (東京大学)
			<b>U10c</b> エネルギー条件の半古典論的再考 山口知与 (日本大学)
			<b>U11c</b> ワームホールの不安定性 真貝寿明 (大阪工業大学)
		14:24	<b>U12a</b> 宇宙膨張論の検証XXII 空間膨張宇宙ならば(3) 赤方偏移の主因は光子の減衰と推定 阿武靖彦



14:36	<b>U13a</b> 宇宙の素粒子の必要条件は何か 小堀しづ	<b>3月20日(木) 午前・C会場</b>
14:48	<b>U14b</b> 大クエーサー群 小堀しづ	
	<b>U15c</b> ドップラー効果が適用される観察方向はどこか。ハッブルの法則が適用される観察方向はどこか。 小堀しづ	
09:30	<b>U16a</b> GRAMORs を用いた宇宙論パラメータの制限 森岡真代 (東北大学)	
09:42	<b>U17a</b> 弱い重力レンズサーベイにおける観測領域の形状の影響について 高橋龍一 (弘前大学)	
09:54	<b>U18a</b> 弱い重力レンズ場バイスペクトルの効用 加用一者 (東邦大学)	
10:06	<b>U19a</b> Alcock-Paczynski 効果のバイスペクトルへの影響 岡 アキラ (東京大学)	
10:18	<b>U20a</b> 赤方偏移空間における速度統計量の定式化 奥村哲平 (Institute for the Early Universe, Ewha University)	
10:30	<b>U21a</b> FastSound 計画の現状報告: サンプルの性質評価と予想される $f\sigma_8$ 測定精度について 舎川元成 (東京大学)	
10:42	<b>U22a</b> 弱い重力レンズ効果で検出された銀河団の X 線放射の性質 浜名 崇 (国立天文台)	
	<b>U23c</b> The Study of Dark-Matter by Clusters of galaxies Murat Hudaverdi (Yildiz Technical University)	
	<b>U24c</b> Where do Luminous Red Galaxies live in dark matter halos? 星野華子 (名古屋大学)	
10:54	<b>U25a</b> アクションの終末期の恒星の内部構造への影響 青山尚平 (名古屋大学)	

## V1. 地上観測機器

3月19日(水) 午後・E会場	3月20日(木) 午前・E会場
13:00 <b>V101a</b> ALMA の建設 (20) と運用 (4) 井口 聖 (国立天文台)	09:30 <b>V113a</b> 日韓 VLBI 合成アレイによる AGN ジェットの観測 新沼浩太郎 (山口大学)
13:12 <b>V102a</b> ALMA によるミリ波・サブミリ波での太陽観測 : 3 下条圭美 (国立天文台)	<b>V114c</b> 大学 VLBI 連携観測の最近の成果 藤沢健太 (山口大学)
13:24 <b>V103a</b> ALMA Band4 受信機開発進捗状況 (VIII) 高橋敏一 (国立天文台)	<b>V115c</b> RF ダイレクトサンプラー” OCTAD” の開発と性能評価 小山友明 (国立天文台)
13:36 <b>V104a</b> ALMA Band10 受信機開発進捗状況 (XIV) 金子慶子 (国立天文台)	09:42 <b>V116a</b> 国土地理院つくば 32m 電波望遠鏡のポインティングと方位角車輪レールの関連調査 藤田真司 (筑波大学)
13:48 <b>V105a</b> ALMA Band10 受信機開発進捗状況 (XV) 藤井泰範 (国立天文台)	09:54 <b>V117a</b> 広帯域受信電波望遠鏡 (パラボラアンテナ) の開発 (2) 福崎順洋 (国土交通省国土地理院)
14:00 <b>V106a</b> SiGe HBT を用いた 0.5-4 GHz 帯入力整合型冷却低雑音アンプの試作 小嶋崇文 (国立天文台)	10:06 <b>V118a</b> 広帯域フィードの開発 (VI) 氏原秀樹 (情報通信研究機構)
14:12 <b>V107a</b> ALMA 観測サイトにおけるキャリブレーション用信号源 その4 木内 等 (国立天文台)	10:18 <b>V119a</b> VLBI データ較正妥当性の検証法確立への試み 三好 真 (国立天文台)
14:24 <b>V108a</b> ASTE の運用報告 奥田武志 (国立天文台)	<b>V120c</b> 電波合成型ミリ波アンテナの設計 2 春日 隆 (法政大学)
14:36 <b>V109b</b> ALMA BAND8 カートリッジ型受信機量産機の性能 佐藤直久 (国立天文台)	10:30 <b>V121a</b> 単一鏡電波観測における偏波計測手法 水野いづみ (鹿児島大学 / 国立天文台)
14:36 <b>V110b</b> ALMA Band 10 (787-950 GHz) 性能検証およびファーストFRINGE 浅山信一郎 (国立天文台)	10:42 <b>V122a</b> 10m 電波望遠鏡 SPART による太陽系惑星大気環境監視プロジェクトの進捗 前澤裕之 (大阪府立大学)
14:36 <b>V111b</b> 野辺山 45m 電波望遠鏡新マルチビーム受信機「FOREST」の開発進捗 7 石田裕之 (大阪府立大学)	10:54 <b>V123a</b> 周波数変調局部発振器による新しいミリ波サブミリ波分光法 : III. 地球大気輝線放射 - 天体信号の分離方法の開発 谷口暁星 (東京大学)
14:48 <b>V112a</b> 野辺山 45m 鏡搭載 新マルチビーム受信機「FOREST」の開発進捗 6 : 2013 年度の進捗 南谷哲宏 (国立天文台)	

		<p><b>3月20日(木) 午後・E会場</b></p> <p>11:06 <b>V124b</b> 高萩 / 日立 32 m 電波望遠鏡の整備状況 (10) 米倉覚則 (茨城大学)</p> <p>11:06 <b>V125b</b> JAXA 臼田 64m アンテナへの新8GHz 受信機の搭載 上原顕太 (東京大学)</p> <p>11:06 <b>V126b</b> JAXA アンテナを利用した電波天文観測の現状 村田泰宏 (宇宙航空研究開発機構)</p> <p>11:18 <b>V127b</b> VERA 搭載用 86GHz 受信機の開発 岡田 望 (大阪府立大学)</p> <p>11:18 <b>V128b</b> 1.85m 電波望遠鏡プロジェクトの開発進捗 (VII) 西村 淳 (大阪府立大学)</p> <p>11:18 <b>V129b</b> 導波管フィルターを用いた 230GHz 帯新方式 2SB ミキサの開発 長谷川 豊 (大阪府立大学)</p> <p>13:30 <b>V130a</b> 南極 10 m テラヘルツ望遠鏡広視野光学系の基本設計 今田大皓 (筑波大学)</p> <p>13:42 <b>V131b</b> Nasmyth 焦点用サブミリ波広視野光学系の設計 都築俊宏 (国立天文台)</p> <p>13:42 <b>V132b</b> 南極 10 m テラヘルツ望遠鏡搭載用 850 GHz 帯超伝導カメラの基本設計 新田冬夢 (筑波大学)</p> <p>13:42 <b>V133b</b> ミリ波・サブミリ波観測のための広視野冷却光学系の評価 関口繁之 (東京大学)</p> <p>13:54 <b>V134a</b> 南極 10 m テラヘルツ望遠鏡主鏡パネルの基本設計 小野寺 唯 (筑波大学)</p> <p>14:06 <b>V135a</b> 南極 10m テラヘルツ望遠鏡ヘテロダイン受信機系の基本設計 菅谷元典 (筑波大学)</p> <p>14:18 <b>V136a</b> 世界最高性能を有する南極用 500GHz 帯ヘテロダイン受信機系の開発 長崎岳人 (筑波大学)</p> <p>14:30 <b>V137b</b> ミリ波・サブミリ波分光カメラ用オンチップ超伝導バンドパスフィルター 成瀬雅人 (埼玉大学)</p> <p>14:30 <b>V138b</b> MEMS 技術を用いた赤外線・テラヘルツ単一材料光学干渉フィルターの研究 山本啓太 (総合研究大学院大学)</p> <p>14:30 <b>V139b</b> NANTEN2 マルチビーム受信機の光学系設計 2 : 多周波同時観測用光学系設計 望月沙也可 (名古屋大学)</p> <p>14:42 <b>V140b</b> 空気シャワーから放射されるマイクロ波の探索 II 大田 泉 (甲南大学)</p> <p><b>V141c</b> GPS 同期多地点流星電波観測用、測距システムの開発 白居隆志 (日本流星研究会)</p>
--	--	--

## V2. 地上観測機器

<b>3月20日(木) 午後・E会場</b>		
14:54	<b>V201a</b> TMT 計画-主鏡フルサイズセグメント鏡の試作 IV と量産開始 山下卓也 (国立天文台)	<b>V213c</b> MASS-DIMM による名寄の大気擾乱高度プロファイルの測定 合田周平 (北海道大学)
15:06	<b>V202a</b> 東京大学アタカマ天文台 (TAO) 計画の進捗状況 吉井 讓 (東京大学)	10:30 <b>V214a</b> すばる望遠鏡搭載に向けた 8 分割位相マスクコロナグラフの開発 (III) 押山史佳 (北海道大学)
15:18	<b>V203a</b> TAO 計画 : 口径 6.5m 光赤外線望遠鏡の進捗状況 峰崎岳夫 (東京大学)	10:42 <b>V215a</b> RAVEN プロジェクトの状況 大屋 真 (国立天文台)
<b>3月21日(金) 午前・E会場</b>		10:54 <b>V216a</b> TMT-AGE: 開ループ補償光学用ダイナミックレンジ波面センサーの開発 秋山正幸 (東北大学)
09:30	<b>V204a</b> 地球型惑星検出のためのすばる赤外線ドップラー分光器 IRD の開発 : 7 小谷隆行 (国立天文台)	11:06 <b>V217b</b> TMT-AGE : 超広視野多天体補償光学のシミュレーション 大野良人 (東北大学)
09:42	<b>V205a</b> 波面誤差を含む光源を用いた赤外用光ファイバーの特性評価試験 馬場はるか (総合研究大学院大学)	11:06 <b>V218b</b> 小型屈折光学系補償光学装置の開発 III- 機械設計および実験室ファーストループ 北尾栄司 (京都産業大学)
09:54	<b>V206b</b> MOIRCS 用マイクロレンズアレイ面分光ユニットの開発 石垣 剛 (岩手大学)	11:06 <b>V219b</b> HSC リアルタイム解析システム 小池美知太郎 (国立天文台)
09:54	<b>V207b</b> 近赤外多天体分光カメラ SWIMS における面分光ユニットの開発 II 北川祐太郎 (東京大学)	11:18 <b>V220a</b> ヴァーチャル天文台による ALMA データ配信システムの開発および利用状況の報告 江口智士 (国立天文台)
09:54	<b>V208b</b> 狭帯域チューナブルフィルターの開発 (III) 木村剛一 (京都大学)	<b>V221c</b> データ解析環境 SLLIB/SFITSIO の進化とユーザ向けドキュメント整備 山内千里 (みさと天文台 / 宇宙航空研究開発機構)
10:06	<b>V209b</b> 可視光ファブリ・ペロー分光撮像装置 LISS の開発 : 低分散グリズム分光モードの追加立ち上げ 小久保 充 (東京大学)	<b>3月21日(金) 午後・E会場</b>
10:06	<b>V210b</b> 近赤外多天体分光カメラ SWIMS の検出器評価試験 II 西嶋颯哉 (東京大学)	13:30 <b>V222a</b> 弾性体モデルによるデータステッチング方法 栗田光樹夫 (京都大学)
10:06	<b>V211b</b> 台湾製近赤外線アレイ検出器 FPA640 x 512 の性能評価 竹内菜未 (名古屋大学)	13:42 <b>V223a</b> 京大岡山 3.8 m 望遠鏡計画 : 分割鏡制御に用いるアクチュエータの特性 長友 竣 (京都大学)
10:18	<b>V212a</b> 太陽可視観測用補償光学装置, 光学ベンチの設計・製作 2 仲谷善一 (京都大学)	13:54 <b>V224a</b> 京大岡山 3.8m 望遠鏡計画 : 分割鏡変位センサの温度特性の補償 河端洋人 (京都大学)

14:06	<b>V225a</b> 京大岡山 3.8m 望遠鏡計画：位相カメラの技術開発 上野忠美（京都大学）	<b>3月22日（土）午前・E会場</b>
14:18	<b>V226a</b> 京大岡山 3.8m 望遠鏡計画：副鏡計測技術の開発 江見直人（京都大学）	09:30 <b>V236a</b> 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA: 全体報告 高橋竜太郎（国立天文台）
14:30	<b>V227a</b> 南極 30cm 可搬型サブミリ波望遠鏡の日中における光学ポインティングシステムの開発 川崎将平（筑波大学）	09:42 <b>V237a</b> 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA の補助光学系の開発 III 阿久津智忠（国立天文台）
14:42	<b>V228a</b> 可視偏光サーベイ計画 SGMAP: 広視野 3 バンド同時偏光撮像光学系の設計 川端弘治（広島大学）	<b>V238c</b> 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA の安全管理 大石奈緒子（東京大学）
14:54	<b>V229a</b> チベット西部域における光赤外線天体観測環境調査 (VII) 佐々木敏由紀（国立天文台）	09:54 <b>V239a</b> MAGIC 望遠鏡のためのアナログ Sumトリガーのインストールおよびコミッショニング 中嶋大輔（東京大学）
15:06	<b>V230b</b> チベットロボット三色撮像カメラ (HinOTORI) : 最終デザイン 内海洋輔（広島大学）	10:06 <b>V240a</b> Cherenkov Telescope Array (CTA) 計画：全体報告 (6) 手嶋政廣（東京大学）
15:06	<b>V231b</b> 乗鞍コロナ観測所 10cm コロナグラフの中国移設 鈴木 勲（国立天文台）	10:18 <b>V241a</b> モンテカルロシミュレーションを用いた CTA ハードウェア仕様の検証 増田 周（京都大学）
15:06	<b>V232b</b> 可視光観測装置 AROMA-N における新しい観測ネットワークシステムの導入と今後の展望 川村大地（青山学院大学）	10:30 <b>V242a</b> CTA 大口径望遠鏡の分割鏡の開発 (6) 馬場浩則（茨城大学）
15:18	<b>V233a</b> 広視野観測装置 AROMA-W の移設に伴った観測環境の再構築と今後の運用方針について 菅井 駿（青山学院大学）	10:42 <b>V243b</b> CTA 大口径望遠鏡のカメラ開発 (3) 猪目祐介（甲南大学）
15:30	<b>V234b</b> 明野 50cm 可視光望遠鏡の 2013 年度運用実績 齊藤嘉彦（東京工業大学）	10:42 <b>V244b</b> CTA 大口径望遠鏡初号機に向けた読み出し回路の開発 今野裕介（京都大学）
	<b>V235c</b> 木曾 105cm シュミット /KWFC による 659nm 狭帯域撮像 西浦慎悟（東京学芸大学）	

## W1. 飛翔体観測機器

3月20日(木) 午後・I会場	3月21日(金) 午前・I会場
14:30 <b>W101a</b> すざく/HXD/GSOのバックグラウンドの新しい評価II 鈴木大朗(立教大学)	09:30 <b>W112a</b> ASTRO-H搭載軟X線望遠鏡2号機(SXT-2)の地上性能評価 菊地直道(首都大学東京)
14:42 <b>W102b</b> すざく衛星搭載のX線CCDカメラXISにおけるP-sumモードデータのキャリブレーションの報告 水本岬希(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	09:42 <b>W113a</b> ASTRO-H搭載軟X線望遠鏡の迷光測定 富川和紀(首都大学東京)
14:42 <b>W103b</b> 磁場印加によるX線CCDの性能向上 近藤恵介(総合研究大学院大学)	09:54 <b>W114a</b> ASTRO-H搭載精密軟X線分光装置SXSの開発の現状XI 竹井洋(宇宙航空研究開発機構)
<b>W104c</b> 突発X線・ $\gamma$ 線天体検出用カメラの開発 小谷太郎(早稲田大学)	10:06 <b>W115a</b> ASTRO-H搭載X線マイクロカロリメータSXSの分光性能に対する機械式冷凍機擾乱の影響と対策 澤田真理(青山学院大学)
14:42 <b>W105b</b> 超小型衛星「TSUBAME」搭載用硬X線偏光観測システムの開発 伊藤慶(東京工業大学)	10:18 <b>W116a</b> ASTRO-H搭載精密軟X線分光装置SXSの波形処理機器PSPの現状(VIII) 山口直(埼玉大学)
14:54 <b>W106a</b> X線偏光観測衛星GEMSの現状(II) 玉川徹(理化学研究所)	10:30 <b>W117a</b> Astro-H搭載軟X線撮像検出器SXIの開発の現状 平賀純子(東京大学)
15:06 <b>W107a</b> X線ガンマ線偏光観測小型衛星PolariS:開発の現状 林田清(大阪大学)	10:42 <b>W118b</b> ASTRO-H搭載用SXIの性能評価 応答関数と特殊観測モード 片多修平(大阪大学)
15:18 <b>W108b</b> 小型衛星PolariS搭載用X線散乱イメージング偏光計の開発 吉永圭吾(大阪大学)	10:42 <b>W119b</b> ASTRO-H搭載軟X線撮像検出器SXIにおけるCTIおよびCharge Trail補正 信川久実子(京都大学)
15:18 <b>W109b</b> X線ビームラインの高偏光化と較正用コンプトン散乱型偏光計の性能評価 窪田恵(理化学研究所/東京理科大学)	10:42 <b>W120b</b> 次世代X線望遠鏡のためのCFRPミラーフォイルの開発II 杉田聡司(愛媛大学)
15:18 <b>W110b</b> FFAST搭載硬X線検出器の軌道上放射線環境シミュレータ開発の現状 吉田浩晃(大阪大学)	10:54 <b>W121a</b> ASTRO-H搭載硬X線望遠鏡(HXT)の開発の現状VII 粟木久光(愛媛大学)
15:30 <b>W111b</b> 断熱消磁冷凍機を用いたX線マイクロカロリメータ動作環境の構築(4) 菱右京(金沢大学)	11:06 <b>W122a</b> ASTRO-H搭載硬X線望遠鏡(HXT-2)地上較正試験 黒田祐司(名古屋大学)
	11:18 <b>W123a</b> ASTRO-H衛星搭載硬X線撮像検出器(HXI)開発の現状 佐藤悟朗(理化学研究所)



3月21日(金) 午後・I会場	3月22日(土) 午前・I会場
13:30 <b>W124a</b> ASTRO-H 衛星搭載硬 X 線撮像検出器 (HXI) の統合試験における半導体両面ストリップ主検出部の応答調査 小林翔悟 (東京大学)	09:30 <b>W134a</b> ダークバリオン探査ミッション DIOS 開発の進展状況 大橋隆哉 (首都大学東京)
13:42 <b>W125a</b> ASTRO-H 衛星搭載軟ガンマ線検出器 (SGD) 開発の現状 大野雅功 (広島大学)	09:42 <b>W135a</b> DIOS 搭載 4 回反射型 X 線望遠鏡 FXT の反射鏡開発 馬場崎康敬 (名古屋大学)
13:54 <b>W126a</b> ASTRO-H 衛星 搭載検出器 (HXI/SGD) のアクティブシールド BGO ユニットフライト品の受け入れ試験 内山秀樹 (静岡大学)	09:54 <b>W136a</b> TES 型 X 線マイクロカロリメータ信号多重化読み出し回路のデジタル化によるクロストークおよびスケラビリティの改善 千葉 旭 (宇宙航空研究開発機構)
14:06 <b>W127a</b> ASTRO-H 衛星搭載硬 X 線撮像検出器の End-to-End 試験によるアクティブシールドの機能検証 徳田伸矢 (広島大学)	10:06 <b>W137a</b> 超伝導 TES カロリメータを用いた K 中間子原子 X 線の精密分光プロジェクト 山田真也 (理化学研究所)
14:18 <b>W128a</b> ASTRO-H 衛星用時刻付けシステムの構築 寺田幸功 (埼玉大学)	10:18 <b>W138a</b> ガンマ線バーストを用いた初期宇宙探査計画 HiZ-GUNDAM の進捗 (2) 米徳大輔 (金沢大学)
14:30 <b>W129a</b> ASTRO-H 衛星の時刻精度の測定 井上 拓 (埼玉大学)	10:30 <b>W139a</b> 地球磁気圏を X 線で可視化する GEO-X 衛星の検討 江副祐一郎 (首都大学東京)
14:42 <b>W130a</b> Si/CdTe 半導体コンプトンカメラによる sub-MeV 全天観測構想 中澤知洋 (東京大学)	10:42 <b>W140a</b> Wide-Field MAXI 搭載 Soft X-ray Large Solid Angle Camera (SLC) の開発 木村 公 (宇宙航空研究開発機構)
14:54 <b>W131a</b> 炭素繊維強化プラスチック基板を用いた X 線望遠鏡の性能評価 岩瀬敏博 (名古屋大学)	10:54 <b>W141a</b> Wide-Field MAXI 搭載 Hard X-ray Monitor (HXM) の ASIC 開発 有元 誠 (東京工業大学)
15:06 <b>W132a</b> 鉄 K 輝線を含む 6 keV 付近のエネルギー帯を対象とした X 線望遠鏡の大有効面積化に向けた多層膜スーパーミラーの開発 立花 献 (名古屋大学)	11:06 <b>W142a</b> 超小型衛星を用いた天文観測の提案とその初号機 ORBIS の開発状況 西 顕太郎 (首都大学東京)
15:18 <b>W133a</b> X 線干渉計で使う反射鏡と半透膜の特性評価 II 小川修三 (立教大学)	11:18 <b>W143a</b> CALET ガンマ線バーストモニター (CGBM) 開発の現状報告 4 寺澤俊介 (青山学院大学)
	<b>W144c</b> CALET ガンマ線バーストモニター地上ソフトウェア開発の現状報告 瀬沼一真 (青山学院大学)
	<b>W145c</b> CALET ガンマ線バーストモニターの速報体制及び機上トリガーの最適化 藤岡里英 (青山学院大学)



## W2. 飛翔体観測機器

3月22日(土) 午後・I会場	3月19日(水) 午後・I会場
13:30 <b>W146a</b> PoGOLino 気球実験で計測した気球高度での中性子バックグラウンド 高橋弘充 (広島大学)	13:00 <b>W201a</b> 次世代赤外線天文衛星 SPICA: リスク低減フェーズ活動の進捗と国際協力見直し 中川貴雄 (宇宙航空研究開発機構)
13:42 <b>W147a</b> 軟ガンマ線撮像気球実験 SMILE-II 搭載の電子飛跡検出型コンプトンカメラの改良 水村好貴 (京都大学)	13:12 <b>W202a</b> SPICA 搭載観測装置の検討状況概要 松原英雄 (宇宙航空研究開発機構)
13:54 <b>W148a</b> MPPC を用いた新型偏光検出器の開発(2) 瀬田大樹 (金沢大学)	13:24 <b>W203a</b> SPICA リスク低減フェーズ#2における望遠鏡関連の活動について 川田光伸 (宇宙航空研究開発機構)
14:06 <b>W149a</b> 磁気回折のX線偏光解析への応用について 安達弘通 (信州大学)	<b>W204c</b> SPICA 搭載中間赤外線分光撮像装置の構造再検討 片坐宏一 (宇宙航空研究開発機構)
14:18 <b>W150a</b> SOI 技術を用いた新型 X 線撮像分光器の開発 9: 電荷感応増幅型ピクセル回路の評価 武田彩希 (総合研究大学院大学 / KEK)	13:36 <b>W205aA</b> SPICA far-IR imaging spectrometer SAFARI – RMP activities 土井靖生 (東京大学)
14:30 <b>W151a</b> 電荷交換反応の地上実験を目指した高精度 X 線分光システムの構築 星野晶夫 (立教大学)	13:48 <b>W206a</b> SPICA Coronagraph Instrument (SCI): 2013 年の進捗 塩谷圭吾 (宇宙航空研究開発機構)
14:42 <b>W152a</b> 誘電体 X 線マイクロカロリメータの GHz 帯読み出しの研究 菊地貴大 (宇宙航空研究開発機構)	14:00 <b>W207b</b> SPICA コロナグラフ装置のための金属切削鏡を用いた光学系の評価実験 尾関真二 (名古屋大学)
14:54 <b>W153a</b> テルル化カドミウム半導体両面ストリップ検出器を用いた小型コーデッドイメージングシステムの開発・検証 内田悠介 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)	14:00 <b>W208b</b> SPICA 衛星のコンタミネーション管理: リスク低減活動のまとめ 磯部直樹 (宇宙航空研究開発機構)
	14:00 <b>W209b</b> 次世代中間赤外線観測装置用イメージャーユニットの試作と疑似スリット像の非冷却評価システムの構築 左近 樹 (東京大学)
	14:12 <b>W210a</b> SPICA 黒色塗料候補に対する反射率測定を用いた低温放射率の評価 矢野健一 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)
	14:24 <b>W211a</b> FITE 用圧縮型 Ge:Ga 二次元遠赤外線アレイの開発-II 芝井 広 (大阪大学)
	14:36 <b>W212a</b> 遠赤外線画像センサーのための極低温読み出し回路~ CMOS アナログスイッチ~ 長勢晃一

14:48	<b>W213a</b> CIBERによる宇宙近赤外線背景放射の観測 - 大気光差し引き方法の改良 大西陽介 (東京工業大学 / 宇宙航空研究開発機構)	10:54	<b>W224b</b> Experimental confirmation for CLASP's spectrograph alignment procedure. Giono Gabriel (National Astronomical Observatory of Japan)
15:00	<b>W214b</b> 宇宙赤外線背景放射の観測用ロケット実験 CIBER-2 : 開発状況の報告 白旗麻衣 (宇宙航空研究開発機構)		<b>W225c</b> 真空紫外線に特化した高精度 MgF <sub>2</sub> 波長板の開発 石川遼子 (国立天文台)
15:00	<b>W215b</b> 表面活性化常温ウエハ接合技術を用いた Ge p <sup>+</sup> -i 接合型遠赤外線検出素子開発のための各層の物理特性の評価 田中琴未 (名古屋大学)	10:54	<b>W226b</b> 太陽彩層・遷移層磁場観測を目指した遠紫外線域凹面回折格子の開発 II 原 弘久 (国立天文台)
<b>3月20日(木) 午前・I会場</b>			
09:30	<b>W216a</b> LiteBIRDの概要とプロジェクトの進捗 松村知岳 (高エネルギー加速器研究機構)	11:06	<b>W227b</b> 真空紫外線用・国産機械切り回折格子の開発 石川遼子 (国立天文台)
09:42	<b>W217a</b> LiteBIRDにむけた宇宙前景放射除去法の検討 夏目浩太 (横浜国立大学大学院)	11:06	<b>W228b</b> 次期太陽観測衛星 SOLAR-C 搭載光学望遠鏡 (SUVIT) の検討進捗 末松芳法 (国立天文台)
09:54	<b>W218a</b> CMB 偏光観測衛星 LiteBIRD における系統誤差の研究 IV 永田 竜 (高エネルギー加速器研究機構)	11:06	<b>W229b</b> SOLAR-C 光学望遠鏡 (SUVIT): 偏光分光観測装置の光学系検討 勝川行雄 (国立天文台)
10:06	<b>W219a</b> LiteBIRD 衛星の光学系の設計 高津 湊 (大阪府立大学)	11:18	<b>W230a</b> コリレーショントラッカー用高速 CMOS カメラの試作開発 清水敏文 (宇宙航空研究開発機構)
10:18	<b>W220a</b> フォトニック結晶技術による焦点面マスクコロナグラフの開発状況 村上尚史 (北海道大学)		
10:30	<b>W221a</b> 32 分割 4 次光渦コロナグラフによる speckle decorrelation 偏光差分法の実証実験 庄子隼斗 (北海道大学)		
10:42	<b>W222a</b> 系外惑星直接観測のための焦点面波面センシングを用いた補償光学制御法 (2) 大矢正人 (日本大学 / 国立天文台)		
10:54	<b>W223b</b> 太陽 Ly $\alpha$ 線偏光分光観測ロケット実験 CLASP の Slit-jaw 光学系試作品の評価 久保雅仁 (国立天文台)		

3月20日(木) 午後・I会場		
13:30	<b>W231a</b> Nano-JASMINE と小型 JASMINE の進捗状況概要 郷田直輝 (国立天文台)	<b>W243c</b> Statistical Correlation of Satellite Anomalies and Space Weather Mehmet Kaplan (Yildiz Technical University)
13:42	<b>W232b</b> 小型 JASMINE ミッション部 (主に熱・構造) の検討 矢野太平 (国立天文台)	
13:42	<b>W233b</b> 小型 JASMINE 光学系の公差解析と組立調整 鹿島伸悟 (国立天文台)	
	<b>W234c</b> 小型 JASMINE 実現のためのクリティカルな検討課題の技術実証 VI 丹羽佳人 (国立天文台)	
13:42	<b>W235b</b> Nano-JASMINE: 完全空乏型CCDのピクセル応答関数の測定 小林行泰 (国立天文台)	
13:54	<b>W236a</b> 超小型赤外線位置天文衛星 Nano-JASMINE の星像中心決定と最終誤差評価 原 拓自 (東京大学)	
14:06	<b>W237a</b> Nano-JASMINE データ解析前処理ソフトウェアの構築 山田良透 (京都大学)	
14:18	<b>W238b</b> 「あかり」 中間赤外線全天 diffuse マップの作成に関する現状報告 天筒智也 (名古屋大学)	
	<b>W239c</b> DARTS/AKARI 全天マップ検索機能の開発 吉野 彰 (宇宙航空研究開発機構)	
14:18	<b>W240b</b> 気球 VLBI 用 22GHz 帯受信機の光学系および RF 系の開発 木村公洋 (大阪府立大学)	
	<b>W241c</b> 気球 VLBI ミッションの検討 II 土居明広 (宇宙航空研究開発機構)	
14:18	<b>W242b</b> 野辺山 45m 電波望遠鏡を用いた 43GHz 帯における金属メッシュ鏡面の RF 性能測定 亀谷和久 (東京理科大学)	

## X. 銀河形成

3月21日(金) 午後・B会場	
13:30	<b>X01a</b> Analysis of Enrichment Histories for Elements among the different Galactic Components during the Early Evolution of Milky Way 山田志真子 (北海道大学)
13:42	<b>X02b</b> 銀河系円盤の化学進化 : 金属量勾配進化に基づく円盤形成過程の解明 豊内大輔 (東北大学)
13:42	<b>X03b</b> The stellar mass function and efficiency of galaxy formation with a varying initial mass function 後藤亮介 (東京大学)
13:42	<b>X04b</b> Spitzer and miniTAO View of Starburst and AGN Properties in LIRGs 館内 謙 (東京大学)
13:54	<b>X05a</b> 遠赤外線セレクト銀河の空間分布のパワースペクトル解析 鈴木智子 (名古屋大学)
14:06	<b>X06a</b> The cosmological galaxy formation model in the far IR and sub-mm: Predictions for ALMA and SPICA 真喜屋龍 (東京大学)
14:18	<b>X07a</b> 星間輻射場によって制御される星団形成過程の3次元輻射流体力学による研究 安部牧人 (筑波大学)
14:30	<b>X08a</b> Molecular gas and dust in star-forming galaxies at $z \sim 1.4$ with ALMA 世古明史 (京都大学)
14:42	<b>X09a</b> A forming elliptical galaxy at $z=1.4$ under multi-merging? 太田耕司 (京都大学)
14:54	<b>X10b</b> Optical/NIR identification of 'sub-mJy' submm sources 甘日出文洋 (国立天文台)
14:54	<b>X11b</b> 可視・近赤外線分光で探る遠方銀河の星形成フィードバック 播金優一 (東京大学)
14:54	<b>X12b</b> 電波銀河の周りの LAE 高密度領域 ( $z=3.1$ ) における DRG 探査 道山知成 (東北大学)
15:06	<b>X13b</b> 赤方偏移 $z=6.6$ ライマンブレイク銀河選択用 HSC XB945 の開発 井上昭雄 (大阪産業大学)
15:06	<b>X14b</b> Hubble Frontier Fields データを用いた再電離期の紫外線光度関数への制限 石垣真史 (東京大学)
15:06	<b>X15b</b> 重力レンズで探る再電離期の銀河の性質 川俣良太 (東京大学)
15:18	<b>X16b</b> 宇宙背景光 I: HST で見た紫外可視光背景放射 川良公明 (東京大学)
15:18	<b>X17b</b> 宇宙背景光 II : COBE/DIRBE で見た近赤外線背景放射 佐野 圭 (東京大学)

3月22日(土) 午前・B会場		3月22日(土) 午後・B会場	
09:30	<b>X18a</b> 銀河団銀河のサイズ進化 大木 平 (長崎大学)	13:30	<b>X29a</b> Early results of Jansky VLA S-band deep observation toward dusty starburst galaxies in the proto-cluster around radio galaxy 4C23.56 Minju Lee (The University of Tokyo/NAOJ)
09:42	<b>X19a</b> 表面輝度プロファイルから探る赤い銀 河の形成史 森下貴弘 (東北大学)	13:42	<b>X30a</b> 電波銀河 MRC 0200+015 周囲の原始 銀河団の分光同定 田中 壺 (国立天文台)
09:54	<b>X20a</b> COSMOS 領域のクランピー銀河の割 合の進化 村田勝寛 (名古屋大学)	13:54	<b>X31a</b> ハーシェル宇宙望遠鏡による原始銀 河団探査 加藤裕太 (東京大学)
10:06	<b>X21a</b> Bridging Lyman alpha emitters and Hosting Dark Haloes at $z \sim 2$ 後藤亮介 (東京大学)	14:06	<b>X32a</b> $z=6.0$ の原始銀河団の特徴的な3次元 銀河分布 利川 潤 (総合研究大学院大学)
10:18	<b>X22a</b> Discovery of [OII] Blobs: A Clue to a Feedback/Star-Formation Quenching Process at High Redshifts Yuma, Suraphong (東京大学)	14:18	<b>X33a</b> すばる FOCAS で観測された高赤方偏 移 GRB 130606A の吸収線スペクトル 栗田 真 (東京工業大学)
10:30	<b>X23a</b> 近傍 - 遠方銀河の電離状態の統計的 研究 中島王彦 (東京大学)	14:30	<b>X34a</b> 宇宙再電離過程の解明に向けた $Ly \alpha$ Emitter 理論モデルの開発 II 小林正和 (愛媛大学)
	<b>X24c</b> $Ly \alpha$ 輝線銀河の速度構造研究で探 る $Ly \alpha$ の放射機構 澁谷隆俊 (東京大学)	14:42	<b>X35a</b> High- $z$ Galaxies in Cosmological Hydrodynamic Simulations Kentaro Nagamine (Osaka University)
10:42	<b>X25a</b> 電波銀河 4C65.22 領域 ( $z=1.52$ ) にお ける $H \alpha$ 輝線銀河探査 小山佑世 (国立天文台)	14:54	<b>X36a</b> 初期宇宙における始原ガス雲と巨大ブ ラックホール 鄭昇 明 (東京大学)
10:54	<b>X26a</b> $z > 2$ 原始銀河団の近赤外分光で明か す原始楕円銀河の物理状態 嶋川里澄 (総合研究大学院大学)	15:06	<b>X37a</b> 銀河ダスト形成史に於けるダストサイ ズ分布の効果 平下博之 (台湾中央研究院)
11:06	<b>X27a</b> $z > 2$ 星形成銀河にみる早期型銀河へ の進化経路 但木謙一 (国立天文台)		
11:18	<b>X28a</b> SWIMS-18 サーベイ計画: 銀河形成 の最盛期を極める 児玉忠恭 (国立天文台)		

## Y. 天文教育・その他

3月19日(水) 午後・G会場		
13:00	<b>Y01a</b> 天文超素人母による宙ガールの育て方 富田朝木 (ひが企画)	14:36 <b>Y14a</b> 福島県いわき市及びカンボジア王国での天文教育普及活動 福島広大 (法政大学)
13:12	<b>Y02a</b> Mitaka を用いた小学校での出張授業とその効果 川越至桜 (東京大学)	14:48 <b>Y15a</b> クラウドファンディングを利用した天文学普及事例の報告 岡島礼奈 (一般社団法人学術コミュニケーション支援機構)
	<b>Y03c</b> 天体の日周運動と年周運動の理解を促進する教材の開発 濤崎智佳 (上越教育大学)	
13:24	<b>Y04a</b> 非理科生を対象とした小学校理科の指導に関する全国調査 下井倉ともみ (東京学芸大学)	
13:36	<b>Y05b</b> 天文学普及プロジェクト「天プラ」の10年 高梨直紘 (東京大学)	
13:36	<b>Y06b</b> 大学院生出張授業プロジェクト(BAP)の活動報告 2013 篠木新吾 (東京大学)	
13:36	<b>Y07b</b> 九州大学ペガスプロジェクトによる宇宙教育とその成果 藤原智子 (九州大学)	
13:48	<b>Y08a</b> 大学教育における汎学科の「手を動かす天文学」の実践 山岡 均 (九州大学)	
14:00	<b>Y09a</b> 光・赤外線天文学大学間連携による短期滞在実習プログラムの実施 大朝由美子 (埼玉大学)	
14:12	<b>Y10a</b> 天文分野を対象とした自主学習型解析体験教材の開発 -IV 伊藤信成 (三重大学)	
	<b>Y11c</b> 天文分野を対象とした自主学習型解析体験教材の開発 III 西浦慎悟 (東京学芸大学)	
14:24	<b>Y12a</b> 日本手話による天文・地球学習教材の開発 嶺重 慎 (京都大学)	
	<b>Y13c</b> 晴眼者にも視覚障害者にも読みやすい集録原稿の公開 白田 - 佐藤功美子 (国立天文台)	



3月20日(木) 午前・G会場		
09:30	<b>Y16a</b> ドーム型スクリーンに投影する天体画像への臨場感・没入感に関する研究 松岡葉月(国立民族学博物館)	<b>Y28c</b> みさと天文台全天モニタの開発 小澤友彦(紀美野町みさと天文台)
09:42	<b>Y17b</b> 国立天文台野辺山見学者300万人達成 衣笠健三(国立天文台)	<b>Y29c</b> 高速度カメラを用いたシーイングの補正実験について(III) 當村一朗(大阪府立大学工業高等専門学校)
09:42	<b>Y18b</b> 「みたか太陽系ウォーク」5年間の発展とその評価 縣秀彦(国立天文台)	10:30 <b>Y30b</b> 天文用語の発音調査 佐藤 勲(宇宙用語研究会)
	<b>Y19c</b> ウェブ上での彗星観察報告キャンペーンの結果報告(パンスタース彗星、アイソン彗星) 石崎昌春(国立天文台)	<b>Y31c</b> 「あかり」データアーカイブプロジェクトの現状(3) 山村一誠(宇宙航空研究開発機構)
09:42	<b>Y20b</b> 高校生天体観測ネットワークのアイソン彗星観測計画とその成果 塚田 健(平塚市博物館)	
09:54	<b>Y21a</b> 紀美野町みさと天文台におけるアイソン彗星に関する活動報告 矢動丸泰(紀美野町みさと天文台)	
	<b>Y22c</b> 銀河系中心巨大ブラックホール SgrA*の2014年事象と天文教育 大西浩次(国立長野高専)	
10:06	<b>Y23a</b> 環境整備、作品制作による衛星データの他分野利用:「花山天文台 Galleryweek」および「Birdview」による実践的アプローチ 玉澤春史(京都大学)	
10:18	<b>Y24b</b> 自作分光器によるHe I 1083.0nmを用いた太陽ヘリオグラムの取得 坂江隆志(埼玉県立浦和西高等学校)	
10:18	<b>Y25b</b> 観望用直視分光アイピースの開発 橋本 修(ぐんま天文台)	
10:18	<b>Y26b</b> デジタル一眼カメラを用いた散開星団の測光精度検証 小野間史樹(星空公団)	
10:30	<b>Y27b</b> 全天モニタ画像公開システムの開発 小澤友彦(紀美野町みさと天文台)	



2014年2月20日発行

年会実行委員会

委員長	宮田隆志	(東京大学)
委員	久保雅仁	(国立天文台)
	左近樹	(東京大学)
	佐藤文衛	(東京工業大学)
	鈴木知治	(東京大学)
	田中邦彦	(慶應義塾大学)
	寺田幸功	(埼玉大学)
	土居明広	(宇宙航空研究開発機構)
	峰崎岳夫	(東京大学)
	中道晶香	(京都産業大学) 保育室担当

年会開催地理事

石丸友里 (国際基督教大学)